

平成 24 年度

中英研会報

第 71 号

東京都中学校英語教育研究会

平成24年度 ― 行 動 目 標 ―

東京都中学校英語教育研究会は、21世紀における中学校英語教育のなお一層の充実・発展を目指して活動することにその意義を有するものである。

よって、つぎのような行動目標のもと積極的にその活動を推進する。

1. 組織の充実とその活性化を図る。
 - (1) 都中英研の組織がより強固なものとなるようその充実を図り、改善を行う。
 - (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画することを通して、その活性化を図る。
 - (3) 都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の部長、幹事と連携を密にし、組織としての基盤づくりに努める。
2. 人材の発掘とその育成に努める。
 - (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
 - (2) 英語教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。
 - (3) 英語教員の養成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を整備する。
3. 調査・研究の充実を図る。
 - (1) 英語教育に関わる基礎的事項や活動実態についての調査活動を遂行する。
 - (2) 英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究活動を遂行する。特に小学校段階での外国語活動との関連に留意した研究を充実する。
 - (3) 新学習指導要領が全面实施されたことを受け、その趣旨を踏まえ、組織的な調査・研究体制を組む。
4. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を図る。
 - (1) 「全英連中学部会」との関わりを一層深め、外部機関に主体的に発信できる組織作りを目指す。
 - (2) 文部科学省、東京都教育委員会はじめ各種教育研究団体等との関わりをより充実させる。
 - (3) その他、英語教育に関わる関係諸団体との関わりをより充実させる。
5. 英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進める。
 - (1) これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
 - (2) HPの活用を図り、それを通して各種情報の受信・発信を行う。

目 次

●これからの都中英研の役割を考える	井田 宗宏	1
●「4-4-4」のBIG CHANCEを生かそう！～単元レベルでどう工夫するか～	平木 裕	2
●東京都教育委員会より	阿部 大介	4
●東京都教職員研修センターにおける外国語(英語)に関する研修について	林 宣之	5
実践研究		
(1) 英語学芸大会 Playの部 優勝 中英研 都大会に育てられた25年。新たな挑戦の始まり！	井村 哲也	7
(2) 英語学芸大会 Speakingの部 優勝 英語によるスピーチを終えて	尾鼻 美子	9
(3) 平成 23 年度 東京都教育研究員中学校外国語部会 研究主題 4技能を総合的に育成することで発信力を高める指導の工夫	東京都教育委員会	10
(4) 平成 23 年度 東京都教育研究員小学校外国語部会 研究主題 児童も教師も自信をもてる授業づくり	東京都教育委員会	13
(5) 東京都中学校英語教育研究会・研究部・公開授業 「辞書指導の実際と中学生用英和辞書の調査」	上尾栄美子	16
(6) 23 道場 中学校外国語(英語)第2班 「授業で勝負！」 7年目の教師道場	高瀬ひとみ	18
(7) 23 道場 中学校外国語(英語)2班2グループ 「東京教師道場」入門から卒業までの取り組み	本多 光三	19
(8) 4技能を総合的に育成する指導の工夫・改善 ～「話す活動」と「読む活動」の関連を持たせて～	前田 宏美	20
●各部報告		
・総務部報告	飯島 光正	22
・事業部報告	横山 達也	23
・調査部報告	五十嵐浩子	25
・研究部報告	北原 延晃	26
・プロジェクト・チーム部報告	斉藤 節子	26
・出版部報告	池田 武男	27
●研究大会報告		
・第52回 大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会(仙台大会)	重松 靖	28
・全英連報告 第62回全国英語教育研究団体連合会総会 第62回全国英語教育研究大会(全英連)石川大会の概要	阿字 宏康	29
・第36回 関東甲信地区中学校英語教育研究大会(茨城大会)	飯島 光正	30
●各地区の活動状況		31
●中英研事業報告		58
●中英研会則		60
●役員一覧		62
●顧問一覧		66
●参与一覧		67
●あとがき		68

これからの都中英研の役割を考える

会長 井田 宗宏
(練馬区立豊玉中学校長)

ノーベル賞受賞が決まる直前、大阪で山中伸弥京都大学教授の講演会を聞く機会に恵まれました。人間的に温かみのある雰囲気に取り込まれてしまいました。その中で、研究を進める上で「V&W」が信念であるという表現がありました。一瞬、何を意味するのか考え込んでしまいましたが、Visionを持って Work hard であるべきだと心から訴えたかったようです。

また受賞式の前日の講演では、「予期せぬ結果と素晴らしい師に出会うことができ、幸運だった」と、落ち着いた英語で、受賞業績であるiPS細胞(人工多能性幹細胞)に至るまでの道のりを振り返って語りました。自分の研究人生には、「二つのタイプの師がいた」と回顧し、最初に、大学院生時代の指導教官をあげ、続いて、もう一つの師は「自然そのもの」と話しました。「自分が独創性を発揮しているのではなく、実験結果が独創性をもたらしてくれている」と謙虚な姿勢をのぞかせていました。英語教育に関わる私たちにとっても興味深い話です。

さて、中学校で英語科の授業に取り組む上で、学力向上、授業改善という言葉は、どの学校にとっても最も大切なキーワードです。しかし、これらのことに具体的な成果を上げることは容易なことではありません。英語科が組織的に、継続した授業研究を推進していくことが不可欠になります。

生徒が生き生きと主体的に英語学習に取り組む姿勢を養い、授業改善の方途を探るために、一人一人の生活環境を見直すことも重要な課題の一つです。そして、今まで以上に実証的なデータに裏付けされた日々の堅実な授業実践が求められています。生徒に身に付けさせるべき英語力や学習方法を明確にし、授業に取り組む様々な場面で、良き変容を目指し工夫を凝らすことが大切になります。

六十数年の歴史と伝統のある都中英研には、これまで多くの先人たちが苦労を重ね培ってきた財産があります。それらを礎に着実に受け継ぎ、さらに発展するための具体策を考えていかなければなりません。今こそ変革期にある中学校英語教育を確かな方向へと導くことが求められています。都中英研に関わる英語科教員は、「まず自分の学校を、子どもたちを大切に、なおかつ人一倍、英語教育に熱い情熱を持ち続ける」という基本姿勢を踏まえることが大切です。

年間を通して、各種の事業には、毎回、多くの英語科教員が参加しています。今年度も、着実に一歩ずつ前進できる組織へと成長を続けてきました。しかし組織が大きく、端々まで浸透させるためには、まだまだきめ細かな配慮と労力が必要です。授業力・英語力を合わせ持つ若手・中堅の英語科教員の育成も大きくクローズアップされてきました。

会員の皆様におかれましては、学校を取り巻く環境が一層厳しくなる中ではありますが、今後とも一層連携を深め、東京都の中学校英語教育の充実に向けて、共に歩んでいきたいと思っております。この1年間、会員の皆様のご協力に心から感謝申し上げますとともに、一層の発展を祈念しています。

「4－4－4」のBIG CHANCEを生かそう！

～単元レベルでどう工夫するか～

国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 平木 裕

3年間の移行措置期間を経て、今年度から新学習指導要領がスタートした。スタートしたとは言っても、すでにその1年目がほぼ終わろうとしている。本会報においては、実施に向けての準備という面から過去3年間にわたってメッセージをお送りしてきたところであるが、実施1年目を終えようとしている今、先生方は何を感じておられるだろうか。

ポイントの確認

まず、しつこいかもしれないが、改訂のポイントをおさらいしておきたい。小学校における外国語活動との接続、4技能の総合的な育成、語彙の充実などももちろんであるが、何と言っても最大のポイントは、授業時数は増加したが指導内容の変更はほとんどない、ということである。「3－3－3」から「4－4－4」へと、3年間で105時間増加した時数を、言語活動の充実のためにどう生かすか、そのことに改めてスポットを当ててみよう。

単元レベルで「充実」を図る

昨年は、「授業時数の増加をどう活用する？」という小見出しを設け、外国語活動での学びを生かすこと、現行課程（今のタイミングで言えば旧課程）で足りないところを見直すこと、高等学校への接続を意識すること、といった大きな側面からアプローチしてみた。今年はそこからもう一步踏み込み、単元を構想し、実際に指導に当たる上で、授業時数増をどのように生かすことができるのか、に焦点化して述べてみたい。

外国語科の場合、指導のまともりは基本的には教科書のLesson、Unit等の「課」であり、これが「単元」ということになる。この単元レベルで指導計画を立てるわけであるが、その要となる「単元の目標」をどのように設定しているだろうか。その前に、学校として各学年で、3年間で、生徒に身に付けさせたい力をきちんと見据えているだろうか。各単元で設定する目標は、その力につながる「パーツ」であり、1回1回の授業は、さらにそのパーツを作り上げるためにある。このように、授業の一つ一つが1年間、ひいては3年間の集大成となっていくイメージを明確にもてれば、言語活動一つをとっても、「これでどのような力につながるのか」と立ち止まって考えることになり、ちょっとした工夫をする余地が生まれてくるのではないだろうか。

例えば、現在課題として取り上げられることの多い「書くこと」の指導に当たっては、単元の目標として具体的な事項をピンポイントで設定した上で、単元全体を通してその目標が達成されるようなビジョンをもって指導と評価の計画を策定する必要がある。その際、「書くこと」のためにはどのような活動を設定しなければならないのか、pre-writingやpost-writingの視点も見据えながら、また目の前の子どもたちの実態を踏まえながら、考えてほしい。いわゆる帯学習やルーチン・ワークで繰り返し指導することも、基礎・基本の定着という面から一定の効果があがるのかもしれないが、やはり単

元の指導の中に「書くこと」をしっかり位置付け、コミュニケーションする場面を大切に
した言語活動を通して力を付けさせたいものである。

文部科学省では、DVD『中学校版 新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国
語科の授業実践事例映像資料2』を今年度公表し、全国に配付した。英語教員のための
ポータルサイトである『えいごネット』 (<http://www.eigo-net.jp/>) においてもいく
らか解説しているが、これは、平成22年度のものに続く第2弾であり、単元の展開の仕
方において充実を図るため、授業時数増への具体的な対応の仕方という視点から授業改
善を図る上で参考となる切り口を設けたという点に特徴がある。全国5カ所で収録した
授業から、単元構想の上で何らかのヒントを得てほしい。ちなみに、前述した「書くこ
と」に関して言えば、ある授業では、書く力を付けるために、他の技能をいかに活用し、
統合的な活動を行っているかを見てもらいたい。ALTの助けを借りることにより、生
徒にとって書く目的が明確で実際的なものになっているところもポイントである。

B I G C H A N C Eは誰のため？

以上述べてきた「4-4-4」を生かすメリット、つまりBIG CHANCEは、言うま
でもなく子どもたちのためにある。日本語とは異なる言語である英語を用いてコミュ
ニケーションする能力を身に付けることでどれだけ自分の世界が広がるか、授業を通し
てことあるごとに実感させるとともに、節目節目で明確な目標を掲げ、その実現に向け
て子どもたちとともに歩いてほしい。実施2年目を迎えようとしている今この時、「
初めての教科書だから…」という言い訳はきかない。増えた105時間は、皆さんの手中
にある！

東京都教育委員会より

東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課 指導主事 阿部 大介

はじめに、歴史と伝統のある東京都中学校英語教育研究会が、これまで東京都の中学校における英語教育の充実・発展に多大な貢献をしてこられましたことに対し、深く敬意を表します。

さて、現行の中学校学習指導要領が全面実施となって一年が経とうとしています。各中学校の外国語科においては、言語活動の充実及び「コミュニケーション能力の基礎」の育成に向け、創意工夫のある授業を実施していただいているところです。そのような中、本研究会が実施しているワークショップやコミュニケーションテスト等は、東京都の英語科教員にとって授業力向上及び授業改善への大きな支援となっています。

小学校においては、昨年度から外国語活動が全面実施となっており、この4月には2年間外国語活動を経験した子供たちが中学校に入学します。また、中学校外国語の学習指導要領では、小学校外国語活動と中学校外国語科の学習との円滑な接続が求められていることから、本研究会のプロジェクトチーム部が実施した、「新学習指導要領の目標達成へとつながる指導法の研究～小中連携の充実を通して～」を主題とした研究は、まさに時宜を得た取組であったと言えます。

この英語教育における小中連携の推進に向けて、東京都教育委員会では今年度設置した小学校外国語活動開発委員会に2名の中学校外国語科の教員に委員として加わっていただき、中学校外国語科の視点から小学校外国語活動の授業について提案をいただきました。また、この3月には、小学校外国語活動の円滑な実施と授業の充実に資するために東京都教育委員会が作成したパンフレットを公立中学校及び中等教育学校にも配布します。

この他にも、東京都教育委員会では各地区や各学校で実施される研修会への指導主事の派遣や、東京都教育研究員などの様々な事業を実施しております。各事業において、本研究会からも多くの先生方に御協力いただきましたことに厚く御礼申し上げますとともに、今後とも都教育委員会として、本研究会及び関係研究団体との連携をより一層深め、東京都における英語教育の充実に努めてまいります。

終わりに、本研究会が、学習指導要領の改訂による英語教育の大きな転換期を迎えているこの時期に、東京都の英語教育の一層の充実に向けた取組を進めていただくことをお願いいたしますとともに、本研究会の益々の御発展と会員の皆様の御活躍をお祈りいたします。

東京都教職員研修センターにおける 外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター 指導主事 林 宣之

平成 24 年度の外国語（英語）に関する専門性向上研修は下記のとおり実施され、多くの先生方が受講した。

＜専門性向上研修 外国語活動ⅠA 1、2＞（全3回）

「エンジョイ！小学校外国語活動」

- ねらい… 小学校外国語活動の目標及び内容を理解するとともに、具体的な教材や授業展開、基本的な指導方法、学習評価について学ぶ。
- 特 色… 津田塾大学との連携により、授業で使用する教材を用いて、体験的に学ぶ。授業研究をとおして、授業展開と教材活用について学ぶ。
- 講 師… 津田塾大学オープンスクール講師 他

＜専門性向上研修 外国語活動ⅡA＞（全2回）

「小学校における外国語活動の推進体制づくり」

- ねらい… 小学校外国語活動の推進上の課題について理解を深め、推進体制づくりや学習指導、学習評価の考え方を学ぶ。
- 特 色… 小学校外国語活動の指導の在り方や学習評価の考え方について学ぶ。校内で推進するための体制づくりの課題や改善策について学ぶ。
- 講 師… 文部科学省初等中等教育局教育課程課
直山 木綿子 教科調査官 他

＜専門性向上研修 英語ⅠB＞（全3回）

「英語科における授業づくりの基礎・基本」

- ねらい… 新学習指導要領の目標及び内容等を理解し、基本的な指導計画づくりや授業展開、学習評価の考え方について学ぶ。
- 特 色… 学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、英語科における学習活動の在り方や学習評価、学習指導案の作成上の留意点について学ぶ。
- 講 師… 東京学芸大学 金谷 憲 特任教授
昭和女子大学 金子 朝子 教授 他

＜専門性向上研修 英語ⅡB＞（全3回）

「英語科における4技能を育成する授業づくり」

- ねらい… 英語科における4技能「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を、総合的に育成する授業づくりについて学ぶ。
- 特 色… 津田塾大学との連携講座として、同大オープンスクール講師等から4技能に関する具体的な指導の工夫と新しい学習評価について学ぶ。
- 講 師… 津田塾大学オープンスクール講師 他

＜専門性向上研修 英語ⅡC＞（全2回）

「英語教育の今日的課題と指導の在り方」

- ねらい… 英語科教育の今日的な課題やこれからの指導と評価の在り方を理解

- し、中学校・高等学校の円滑な接続を図る指導の工夫について学ぶ。
- 特 色… 上智大学との連携講座として、「これからの英語教育」について、オールイングリッシュによる講義・演習を行う。
 - 講 師… 上智大学 吉田 研作 教授

この他にも、以下の外国語（英語）に関する研修を実施した。

＜進学指導のための授業力向上研修E

大学への進学指導を重視した「英語」の指導の工夫＞（全4回）

- ねらい… 昨今の大学入試の現状と課題について学び、進学指導を重視した英語の実践的な指導力を高める。

＜中高一貫教育理解研修＞（全2回）

- ねらい… 中高一貫教育に関する基本的な内容の理解を深め、中高一貫教育校における教育課程編成の基礎知識を習得し、中高一貫校における授業づくりの在り方を学ぶ。

＜東京教師道場＞（毎月1回半日及び夏季休業中2日間）

- ねらい… 東京都公立学校の児童・生徒の学力向上を図るため、授業研究をとおし、2年間にわたって継続的に指導・助言を受け、教科等の専門性を一層高めるとともに、他の教員の指導的役割を担うことができる資質・能力を磨く。

＜東京都教員研究生＞（通年）

- ねらい… 学校経営や学習指導等についての高い専門性を備え、指導的役割を担う学校教育のリーダーの育成を図る。

中英研 都大会に育てられた25年。新たな挑戦の始まり！

～都立中等教育学校からの英語劇の挑戦～

都立小石川中等教育学校 井村 哲也

1) はじめに

初めて本大会を見た時の衝撃は今でも忘れられない。もう今から25年以上も前だ。当時、校内暴力で荒れていた勤務校で、区の中英研の方針で半数の学校が英語劇に挑戦することになった。初任校で実践した日本劇を英語にして何とか完成させた。校内発表会では予想通りトイレトペーパーを投げられ、「通訳呼べよ」等、野次を飛ばされた(この作品が後に検定教科書に掲載されるとは人生とは奇妙なものだ)。なぜか区大会で2位を頂き、その時、都大会の存在を知った。初めて見た都大会の英語劇は別世界のレベルであった。「いつか私もあのレベルの劇を創作したい。」この思いがこれまでの私の英語劇実践の原動力である。

それから13回、私は都大会に参加させて頂いた。50歳を過ぎた私はこの7年間、全く英語劇を実践しなかった。生活指導と一貫校での中学、高校両方の授業準備等の忙しさが理由だが、今回優勝を頂いて冷たい体の中を温かい血液が流れる瞬間を感じた。この空白の7年間で本当に恥じ悔いた。

2) 都立中高一貫校での英語劇の挑戦

都立小石川中等教育学校は、開校7年目の6年一貫の中等教育学校である。SSH(Super Science High School)で理数好きを育てると共に国際理解教育を推進し総合的な英語力を育成することに重点を置いている。よく「優秀な生徒ばかりで、英語劇の実践も楽でしょう」と言われる。がそんなはずはない。中学生は中学生である。ましてや、日々の学習課題は多く、加えて部活や、参加する機会がたくさんある行事やイベントで充実した生活の反面、教師も生徒も毎日非常に忙しい。部活以外で地道な努力や多くの時間を必要とする英語劇は避けられる活動である。

今回は中3の総合学習で英語劇を選択した17名で作品を完成させた。学校を休みがちな子など問題を抱えている子もおり、先が見えない船出であった。練習は週に一回。全く非効率的であったが他は部活で集まらない。また6学年が生活する一貫校では練習場所を確保するのも大変で、全員が揃って体育館で練習できたのが大会前のほんの数回であった。英語劇の実践には非常に厳しい環境である。

実際、彼らの取り組みは集中ができず11月になって50%も完成していなかった。そこで私は勝負に出た。7年前に千代田区立九段中学校で都大会に参加して優勝を頂いた作品を子供たちに見せた。そして「本当にやる気がないのなら大会参加をやめよう」と提案した。良いものを見せれば彼らは絶対にそれを乗り越えようとする。私の賭けは吉と出た。その後、彼らの劇は見違えるように成長していった。大会当日、閉会式で3位、2位と発表され残り優勝校の発表のみとなった時に彼らの緊張はピークに達していた。優勝した瞬間、泣きながら抱き合っている生徒を見て、こういう瞬間を経験をさせて頂いて幸せだと思った。生徒も私もこの都大会に育てられていると心から感じる。今後、英語劇を続けるには越えなくてははいけないハードルがいくつもあがるが、この瞬間の

為に英語劇を実践したい。

3) 都大会「英語学芸大会」を支えて下さっている人たち

7年ぶりの都大会は会場を宝仙学園から千登世橋中学校へと変えていたが、この大会が、事業部長の横山先生や田口先生を始めとする多くの先生方のご努力と、多忙な中、英語劇を実践している先生方の熱い思いで支えられていることに変わりはない。閉会式後、足立区の渡辺雅子先生とお会いした。足立区を優勝に導き、都大会では長年、劇の計時係りで支えて下さった方だ。年賀状で今年が最後であることを後で知った。何度も温かい言葉を頂き育てて頂いた。心から感謝したい。

4) Let's Try Drama これから英語劇を実践したい先生方へ

私は英語劇の専門家でも演劇の経験もない。生徒と共に劇を完成する過程で劇のポイントを掴んでいったような気がする。また大会に参加し、負けて悔しがったり、凹んだり、入賞して褒めて頂きながら成長してきたように思う。25年前初めての英語劇は歌、踊り、マイケルジャクソンの曲の挿入と自分のやりたい放題。区大会では審査委員長に「こんなのは英語劇ではない！」と生徒の前でお叱りを受けた。時代が早過ぎた。時代と共に表現の仕方は変わるものだ。大切な事は英語劇もコミュニケーションであること、伝えたいメッセージを観客に伝える活動であることを忘れない事だけだ。私はすべて自分で台本を書く。私のこれまでの都大会入賞作品と刊行された本を最後に書かせて頂いた。何かの参考になればと思う。私の目標は65歳を過ぎてもドームを駆け回り、30曲を歌い多くの人に感動を与えられる小田和正さんだ。この優勝をきっかけにまた新たな気持ちで英語劇に挑戦したいと思っている。50代はまだまだひよこだ。最後に今回の取り組みにあたり協力して下さい同僚の望月尚子、田中周作、永井圭各教諭に感謝の意を表したい。

<参照：これから英語劇をなさる方へ。これまでの入賞作品と掲載されている本>

作品名 (筆者作)	都大会入賞	掲載された刊行本
A Lion Standing Against the Wind 「風に立つライオン」	H12年優勝 H16年特別賞 <さだまさしさんの歌より>	楽しい英語劇 秀文館 中学生の楽しい演劇集Ⅲ国土社
Gaia～Save the Earth～	H8年優勝 H9年3位	中学生の楽しい演劇集Ⅱ国土社
Marionettes	H4年準優勝 H7年準優勝 H10年準優勝	別タイトル共著で検定教科書
Life is Beautiful	H13年準優勝	未刊行
Seize the Day	H11年優勝 H17年優勝 H24年優勝	未刊行

* 作品は港区立高陵中学校、千代田区立九段中学校、都立小石川中等教育学校で実践された。

英研英語によるスピーチを終えて

杉並区立富士見丘中学校 教諭 尾鼻 美子

まずこの場をお借りして、都中学校英語学芸大会を運営して下さった先生方、関係者の皆様方に感謝の意を伝えたい。生徒に、このような英語による自己表現の場を与えてくださり、本当にありがとうございました。

本校2年生の宮木さんは、本英語学芸大会出場に向けて、「より多くの人に、自分の思いを伝えたい！」という強い気持ちで練習に取り組んだ。なぜなら「一向に無くなることのないいいじめによる悲しいニュースを、自分たちの行動によって無くすることができる！」という、小学校時代の実体験を踏まえた熱い思いがあったからだ。そして、彼女の「伝えたい！」という思いを更に強くしたのは、同区内の先生方から頂いたアドバイスや応援だった。そのような周囲の方々の心強い支えもあり、練習を重ねるごとにどんどん自信をつけ、自分の思いを堂々と伝えることができるようになっていった。

本番当日、舞台での発表を終え、席に戻ってきた彼女が、緊張から解き放たれた表情を見せると同時に口にしたのは、「気持ちよかった！」という一言だった。自分の思いを自分らしく伝えることができ、聞いて下さっている方々と、思いを共有できたという実感があったからこそ、そのような言葉が出たのだと思う。

彼女が、数ヶ月にもわたる長い練習の中で特に意識していたのは、「よりよく伝えるには」ということだった。聞いて下さる方々の立場に立ち、スピーチの方法を考え、練習できたことで、聞いてくださる方々と思いを分かち合えるようなスピーチができたのではないかと思う。伝えたいものがあること、それをどのように伝えるかということ。外国語である英語でのスピーチを通して、彼女は、コミュニケーションにおける最も大切なことを自ら学び、実践していた。母国語である日本語ではなくて、外国語である英語で思いを伝えるために、伝えるということにとことん向き合った。本英語学芸大会に向けて、彼女と共に過ごした時間を通し、外国語を学ぶ意義を私自身が学ばせてもらった気がする。

最後になりましたが、生徒だけでなく、指導者である私自身にも、学ぶチャンスを与えて下さった全ての方々に感謝いたします。

研究主題

4 技能を総合的に育成することで発信力を高める指導の工夫

東京都教育委員会

I 主題設定の理由

平成 24 年度から全面実施される新しい学習指導要領では、「聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」となった。また、新しい学習指導要領では、「つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること」、「語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと」、そして「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」などが新たに示された。

しかし一方で、授業での生徒の活動からは、次の二つの現状が見られる。一つは、質問に対する回答が一語又は一文で終わってしまい、会話が発展しないこと。もう一つは、つながりのある文を言えない、書けないことである。本研究部会ではこれには具体的な課題が二点あると考えた。一つは、文法的に正しい英語表現ができていないこと。もう一つは、文単位の英語表現はできているものの、文と文のつながりを意識した表現ができていないことである。コミュニケーションの場面の中で、「発信」することが一言二言、一問一答で終わることはあまりない。相互理解のできるコミュニケーションを成立させるには、つながりのある文を言えたり、書けたりすることがとても重要かつ不可欠である。

本研究部会では上記の問題を解決するためには、文と文のつながりを意識させ、コミュニケーションを継続させる方法を学ばせることが問題解決の一つの糸口になると考えた。

そして、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの 4 技能を総合的に育成することが、自分の考えや気持ちなどを伝えるといった発信力に最終的につながると考え、研究主題として「4 技能を総合的に育成することで発信力を高める指導の工夫」を設定した。

II 研究の視点

本研究部会では、聞くこと、読むことを通して、生徒がインプットした内容を、話すこと、書くことといったアウトプットにつなげる活動、そして考えや気持ちを発信する際に、語と語や文と文のつながりを意識して行うための活動を開発し、日常の授業を通して検証を進めた。

III 研究の方法

1 基礎研究

学習指導要領に示された目標や内容に照らし、各学校の授業で行われている言語活動等を整理・分析し、研究の方向性を探った。

2 調査研究

教育研究員の所属校において、実技調査と質問紙による生徒への意識調査を実施し、英語を使用しての自己表現に関するコミュニケーションへの意識等について把握した。

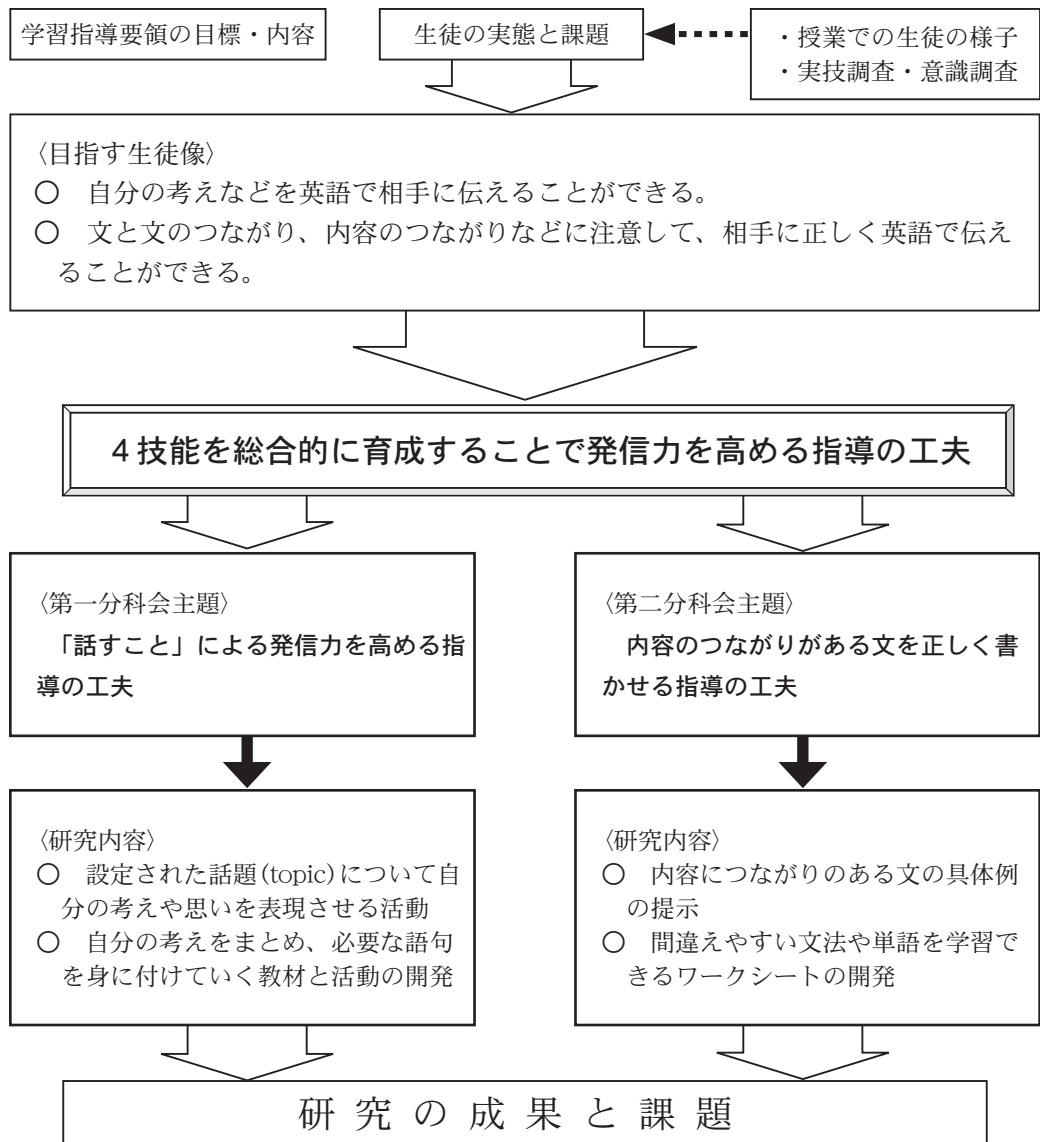
3 授業の実践

研究員所属校において実施した。

4 研究成果のまとめ

検証授業や授業実践、事後アンケート等を基に成果をまとめ、開発した活動の改善を行う。

5 研究構想図



Ⅳ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

(1) 表現の定着

研究当初に、生徒が行う自己紹介の内容を分析したところ、つながりのある文を言えない、書けないという結果が明らかになったが、「Topic Talking」及び「英作文Training Sheet」の二つの教材を開発し、それをを用いた指導法を工夫することにより、生徒は例文を自分の表現として定着させ、他の活動においてもそれらの表現を使って自分の考えを伝えている姿が見られた。

(2) 意欲の向上

上記二つの教材を用いた指導では、生徒は自分の伝えたいことを話したり、書いたりすることを通して、自分の考えを相手に伝えることができる。そのため、意識調査の感想にも「もっと英語で話したい。」、「もっと自分の考えを書きたい。」という内容が多くあった。自分の思っていることを英語で相手に伝えられたという達成感をもたせることにより、英語で自分の考えを発信しようという意欲が高まったと考えられる。

(3) 4技能の総合的な育成

「Topic Talking」は、自分の考えを「話すこと」により相手に伝え、相手の考えを「聞くこと」で理解する活動である。「英作文Training Sheet」は、まとまった量の例文を基に自分の考えを「書くこと」で表現する活動であるが、生徒が書いた良い英文を紹介すると、生徒は一生懸命にそれらを「読むこと」で自分の表現として取り入れようとした。

2 今後の課題

(1) 単語の不足

本研究を通して、生徒の「話すこと」や「書くこと」における自分の考えを伝えたいという意欲を高めることができた。しかし、例文にない単語を使わなければならなくなると、表現活動が止まってしまう場面もあった。自分の興味や関心のあることについて伝えるためには、授業で学習していない単語を使わなければならないことがあるので、自分で伝えたいこと、気になったことについて辞書を引き、単語や辞書にある例文を調べられるように指導をすることが重要である。

(2) 適切なフィードバック

自分の考えや思いを英語で相手に伝えることができるようになることで、生徒たちは社会の出来事に対する自分の意見など、正確に伝えることが難しい内容についても、相手に伝えたいと思うようになってくると考える。その際には、様々な単語や文法事項などを使った英文で表現をしなければならない。

また、生徒の発信力を高めるためには、生徒が作り出した英文が正しく伝わるものであったかどうかフィードバックをする必要がある。しかし、生徒が英文を作ってから教師がフィードバックをするまでに時間がかかると、効果は低くなる。

これらのことから、発信する内容を深化させながら、いかにして生徒への適切なフィードバックをしていくかが課題となる。

研究主題 児童も教師も自信をもてる授業づくり

東京都教育委員会

I 研究主題について

1 主題設定の理由

平成 24 年度から完全実施された小学校外国語活動では、外国語に触れたり、体験したりする機会を設けることで、中学・高等学校におけるコミュニケーション能力の素地を育成することが重要だと示されている。

この「コミュニケーション能力の素地」とは、「小学校段階で外国語活動を通して養われる、言語や文化に対する体験的な理解、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみを指したものである。」と学習指導要領にある。

平成 23 年 7 月に、各研究員の所属校にて児童対象のアンケート調査を行った。その結果、児童は外国語活動が好きであり、将来英語は自分に必要であると捉えているのだが、「何を言っているのか分からない。」、「話したいことをうまく話せない。」といった不安を抱えていることも明確になった。【表 1 参照】 教師対象のアンケートでは、教師自身が外国語を指導するための十分な知識と指導法を身に付けていないため、「流ちょうに話せない、指示ができない。」といった外国語活動の指導に対する苦手意識がある。学習指導要領では英語を流ちょうに話すことは求められていないが、児童と同様に教師も不安を抱えていることが分かった。そして、先行授業の分析から、児童が安心して楽しく活動する大きな要因として、学級の雰囲気、言い換えれば学級経営が大きく作用していることも分かった。【表 2 参照】

この調査から、児童の「コミュニケーション能力の素地」を育成するためには、児童が自信をもって活動することと同時に、それを支える教師自身も自信をもって外国語活動の指導に取り組むことが必要であると考えた。そこで本部会では、こうした実態を踏まえ、児童が意欲的に自信をもって活動するために必要な要素を研究することとした。その要素を取り入れた授業を展開することが、教師も自信をもって指導するための方法に結び付くと考え、研究主題を「児童も教師も自信をもてる授業づくり」と設定した。

【表 1】

児童の英語に対する意識調査（一部抜粋）

外国語活動の授業がすき	80%
英語を聞くのが好き	90%
英語を話すのが好き	65%
英語を使いたい	85%
英語は大切である	95%
英語を使うことに自信がある	30%

研究員各校の 5・6 年生の平均値

【表 2】

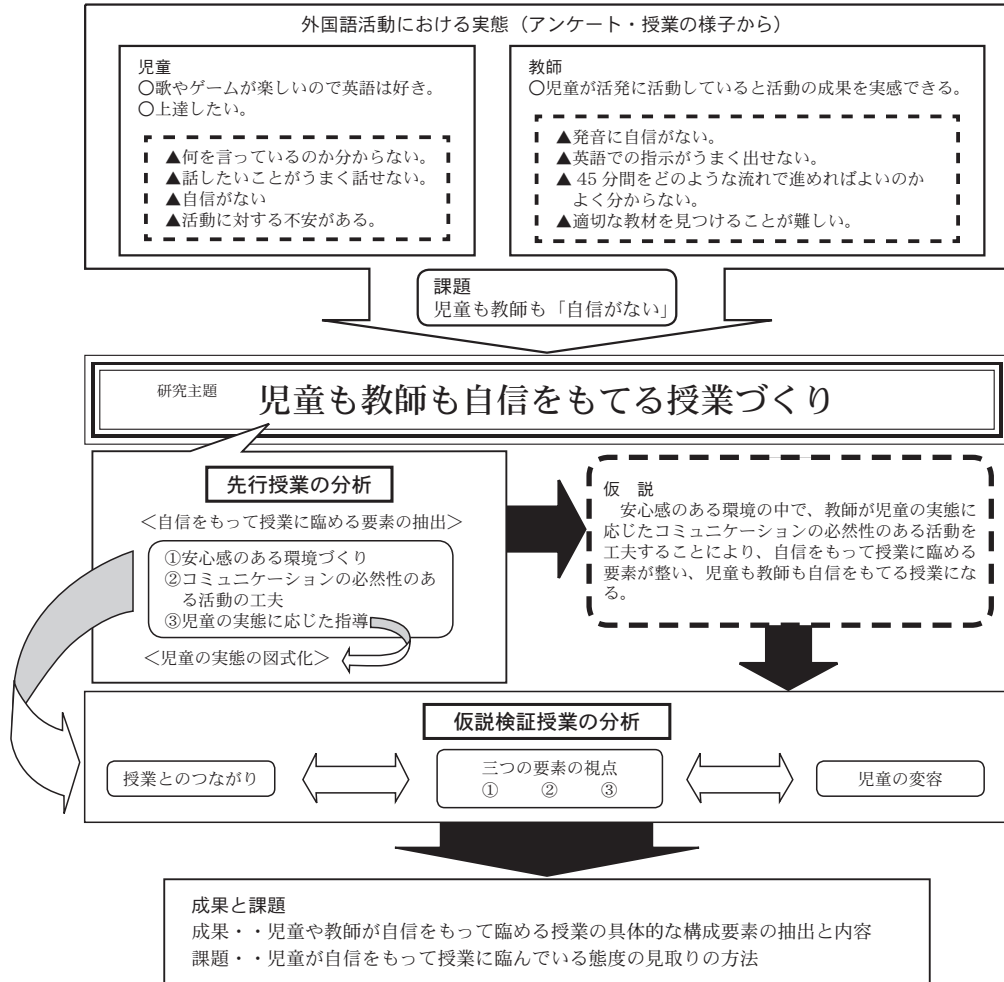
教師の外国語活動に対する意識調査（一部抜粋）

児童は英語が好きだと思う	90%
外国語活動に自信がある	25%
指導で困っていること（一部）	
・ 苦手意識がある。型どおりにできる方が良い。	
・ 児童の興味関心を高める活動の効果的な方法を知らない。	
・ 活動の組立てが難しい。 他	

研究員校の教師対象

II 研究の構想

1 研究構想図



2 研究の方法

(1) 基礎研究

- ・学習指導要領解説及び小学校外国語活動研修ガイドブック等の分析
- ・児童用のアンケート実施 結果の分析 児童の変容の調査
- ・教師用のアンケート実施 現状の分析 チェックシートを作成・活用 指導者の変容の調査

(2) 実践研究

- ・先行授業：基礎研究を踏まえ、自信がもてる授業の要素について、実施した授業のビデオの分析
- ・検証授業：先行授業から見出した三つの要素をポイントに検証授業を行い、具体的な活動内容の検討と検証
- ・事例調査：自己評価が「外国語活動の授業に自信がない」という教師についての調査

(3) 研究のまとめ

5回の授業及び各研究員所属校における授業での児童の活動状況を基に、「児

童も教師も自信がもてる授業」への具体的な手立て等のまとめ

Ⅲ 研究の成果と課題

1 成果

(1) 仮説の妥当性

「安心感のある環境の中で、教師が児童の実態に応じたコミュニケーションの必然性のある活動を工夫することにより、自信をもって授業に臨める要素が整い、児童も教師も自信をもてる授業になる」という仮説を立て、「安心感のある環境」「コミュニケーションの必然性」「児童の実態に応じた授業」の三つの要素を取り入れた授業を組み立てて検証授業を行ったことにより、三つの要素が児童の意欲的な活動に結び付くことが明らかになった。また、「外国語活動に自信がない。」と自己評価する教師の変容の様子から、児童が意欲的に取り組むことで、教師がより一層自信をもって授業を展開できることも分かった。

これらのことから、仮説の妥当性が検証されたと考えられた。

(2) 三つの要素の具体的な内容

それぞれの要素の具体的な内容が明らかになった。

<安心感のある環境>

- ① 授業の流れを決める。
- ② 児童も教師も認め合う言葉を意識して使用する。
- ③ ゲーム等のルールを明確にすることと、それらを守る学級経営をしておく。

<コミュニケーションの必然性のある活動>

- ① 児童の関わりを重視した活動を組み立てる。
- ② 会話を活用する場面をイメージしやすく提示をし、活用したい状況をつくり出す。

<児童の実態に応じた指導>

- ① ステージ1の児童には、毎時間の授業の流れをある程度同じものとし、発話をリズムよく繰り返させたり、グループで活動させたりする。
- ② ステージ2の児童には、児童の興味関心に合わせ、活動の内容を教科と関連させたり、難易度の高いと思われる内容を盛り込む。

(3) 児童の意識について図の作成

授業の様子や振り返りカードの記入等から、児童が授業に臨んでいるときの気持ちを具体的に図に表すことができた。それにより、児童は外国語活動の中で、数種類の気持ちの過程を経て徐々に自信を付けていくことを可視化することができた。

(4) 児童の実態について枠組の作成

授業の児童の様子から、児童の実態を二つの「ステージ」という枠組みで捉えることができた。それにより、児童の実態に応じた活動の組立てのポイントが明確になったり、児童を見取る視点についてポイントを絞って考えたりすることができた。

2 課題

児童が自信を付けているか、どのように英語に親しんでいるかなどの態度を見取るために、振り返りカードを使用した。それらの見取り方については更に研究が必要である。また、各ステージに応じた活動内容の工夫についても、更に深める必要があると考えている。

「辞書指導の実際と中学生用英和辞書の調査」

江戸川区立篠崎第二中学校 教諭 上尾栄美子

1. はじめに

研究部の平成23年度のテーマは「辞書指導の実際と中学生用英和辞書の調査」であった。各部員が授業で行った辞書指導についての効果を検証するとともに、ジュニア版英和辞書(10冊)の調査を行った。(詳細は『語いと英語教育(35)』を参照。)

平成24年2月23日、本校の体育館で研究部の公開授業・研究発表が行われ、私は授業者を務めた。対象は2年生少人数基礎クラスで、受動態を含む教科書本文の内容を理解し、リテリングの発表準備をすることを主な目標とした。

2. 辞書指導

公開授業を行った2年生は、1年生の時に全クラスを担当し、アルファベット導入直後から辞書指導を行った。辞書指導初期には、辞書引きレース等を行い、生徒に辞書に慣れさせる工夫をした。生徒はゲーム感覚で辞書を引き、ほとんどの生徒が辞書を自由自在に使えるようになっていった。

しかし、教科書の内容を扱うようになると、授業の中で辞書指導を行うことの難しさを感じるようになった。1時間の授業の中で辞書を引く機会を与えることができなかつたり、辞書指導が授業の流れを止めてしまうと感じたりすることもあった。試行錯誤をするうちに、授業中に辞書を引かせる語を厳選し、その語を引くことに必然性をもたせることが大切であると考えようになった。

公開授業の指導案作成過程では、教科書本文のどの語を、授業のどの段階で引かせるかが私にとって課題であった。研究部では前年度、「辞書指導シラバス」を研究テーマとして、部員が使用している4つの教科書について、どの新出語を辞書で引かせるかを選定していたので、それを参考にした。(詳細は『語いと英語教育(34)』を参照。)授業のどの段階で辞書を引かせるかについては、教科書本文のOral introduction後のExplanationとし、開本直前に与えるReading pointと関連させた。

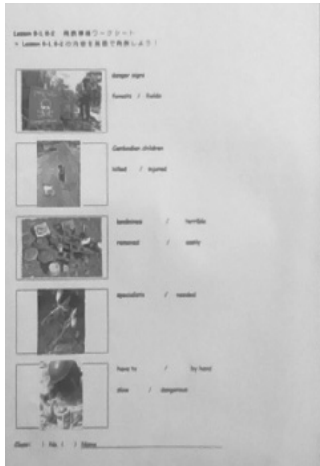
他にも辞書を引かせたいという語については、普段から使用している家庭学習用ワークシートで補うこととした。このワークシートは教科書本文を利用したもので、既習事項のリサイクルとなる問いを設けている。(例：whatが出てきたら疑問詞をすべて書かせる、Sundayが出てきたら、すべての曜日を書かせる、等。)

辞書を引かせる問いも設けるようにしており、例文を抜き出すという問いの他に、紙の辞書の俯瞰性を生かして、辞書を縦に読ませるような問いも設けている。(例：asily → easy, danger → dangerous 等。)

3. 公開授業の指導過程と辞書指導

Review …前ページの本文を復習。その1文を利用した自己表現作文が課題であったので、それを発表。

Oral introduction of the text



Explanation … 開本直前に与えた Reading point の確認。理解を深めるために辞書を引かせる。

Reading aloud … 新出語句を練習後、音読。

Preparation of retelling … ワークシートを利用しグループで協力して発表準備。左がリテリング準備用のワークシートである。Oral Introduction で使用したピクチャーカードとヒントとなる語句を載せてある。

Oral introduction の主要部分を以下に紹介する。() は生徒の反応。

[カンボジアの地雷の標識を示し] Look at these signs. Are they seen in Japan? (No, they aren't.) No. They are seen in ...? (Cambodia.) Yes. They are seen in Cambodia. They say ...['Danger!' を指す](Danger!)

Yes. These signs show that this place is very dangerous. What is the danger? (Landmines.) Yes. [地雷の写真を示し] There are many landmines around these signs. In these places, some children are killed or injured. Landmines are terrible. What can we do to save children? Can we remove, take away landmines easily? Removing landmines, is it easy? (No.) No. It's difficult. And it's dangerous. So specialists are needed. [地雷撤去をする人の写真を示す] It's slow and dangerous work. Why? Why is it slow and dangerous work?

Oral introduction の最後を Reading point として開本させ、生徒は 'by hand' を見つけ、地雷撤去が「手で」行われるのだと理解した。その後、"They have to do it by hand." の一文に含まれる 'have to' に着目させ、辞書を引かせた。例文も併せて確認し、「専門家は地雷撤去を手で行わなくてはならない」、だから時間のかかる、危険な作業なのだと確認した。

4. おわりに

今年度、研究部では、「効果的な辞書指導の事例」をまとめた。(『語いと英語教育(36)』を参照。)一人でも多くの先生方にご覧いただき、辞書指導の参考にしていただければ幸いである。

「授業で勝負！」 7年目の教師道場

リーダー 千代田区立九段中等教育学校 主任教諭 高瀬ひとみ

教師道場とは、授業力向上を目指し、2年間継続的に指導・助言を受け、教科の専門性を一層高めることのできる研修である。教師道場の魅力はまさにこの「2年間継続」して研修できるところにある。真に自分の課題と向き合い、悩みながら改善していく中に、本当の成長がある。23道場においても、若手から中堅の先生方まで、区部、市部そして島しょにわたって実に様々な先生方が集まり、密度の濃い2年間の研修となった。

2班では「活動のねらいを明確にした授業展開」を研修テーマに掲げた。どの先生方も50分の授業の流れはできていた。しかし、果たして、その活動に「ねらい」はあるのかと問うたとき、その答えはあいまいだった。以後、研究協議会では常に「その活動の目的は？」というのが頻繁に聞かれるようになった。授業者自身も授業のデザインをする際にこの「ねらい」や「目的」を常に意識するようになっていった。先輩から学んだ活動を自分の授業に取り入れることは悪いことではない。ただ、やみくもに同じ活動を行ってもうまくいかない場合が多い。目の前にいる生徒の実情をとらえ、その生徒のために必要なことは何かを考え、ねらいを定めることが大切であろう。道場では、月に一度、授業を参観できる。これも大いに魅力的である。他の先生方の授業を見させていただくことほど貴重なことはない。50分間の授業を参観するということは、授業そのものだけでなく、そのバックグラウンドも体感できる機会である。例えば、授業中に発言や挙手が多いのはなぜか？それは生徒が発言したり挙手したりすることに抵抗なく安心して授業を受けているからである。日頃から、教師と生徒、また、生徒同士の信頼関係によるものが大きい。授業がうまいと言われる先生は、指導技術に終始している先生ではない。生徒との信頼関係を築き、その生徒のために指導技術を磨く先生のことである。

平成18年度から始まった東京教師道場は7年が過ぎる。私自身、18道場の部員として、2年間勉強させていただいた。「授業は、自分が受けてきたようにしかできない」という壁にぶつかっていた頃、道場の話をしていただいた。2年間、一つ一つが刺激的だった。研修の帰りの電車の中でも、部員同士で研修が続いた。文字通り「道場」という名のもとで自分を鍛えていただいたおかげで、今日の私自身がいる。私自身が学んだことを少しでもお伝えしたいという気持ちで、この2年間、23道場の先生方と接してきた。そしてそれを、目の前の生徒に還元していただければ大変嬉しく思う。

「東京教師道場」入門から卒業までの取り組み

部員 国分寺市立第一中学校 教諭 本多 光三

教師道場で学んだこの2年間は、今後の私の教員生活に多大な影響を与える財産であると断言できる。その理由は2つある。一つは「授業改善」であり、もうひとつは「出会いとつながり」である。

教師道場に参加する前の4年間を振り返ってみると、授業の中で、特別な根拠がないまま生徒に行かせていた活動が圧倒的に多かったように思う。「生徒が抱えている課題とそれを改善するための授業計画を考える。」当たり前のように、その当たり前のことができていなかったのが当時の私の授業であった。そこで、活動のねらいと根拠を常に考え、「なぜその活動をこの授業で行うのか」という自問自答を繰り返した。活動と活動、授業と授業のつながりを常に意識することが大切であることに気づき、授業の改善を図ることにした。このことは、最初に拝見したリーダーの模範授業から得たものだった。無駄のない指示と生徒の素早い反応、学習者主体の活動的な学びのある授業展開、「3年後や6年後の理想の生徒像」というゴールのために必要な活動を授業内に行う計画性など、あらゆることに衝撃を受けた。この体験が今後自分の目指すべき授業の方向性だと確信した。

また、1年目の夏季集中講座のテーマが「オーラル・イントロダクションをどう行うか」であった。以前は意義や手法、ねらいを理解せずに行っていたが、この研修を機にオーラル・イントロダクションを効果的に行うことを念頭に授業を組み立てるようになった。このことは自分の授業のやり方を大きく変える出来事であった。

以後、次の4つのことを念頭に日々の授業に取り組んできた。① Authenticな英語を大切にしているか。② 50分の中でいかに多くの英語に触れさせるか。③ 日本語と英語の切り替えを効果的に行なっているか。④ 活動ごとにつながりがあり、スモールステップを踏んだ授業構成か。これらすべてを満たす授業を毎回できるわけではないが、自分自身を振り返る基準として、いつも意識している。

この2年間は「出会いとつながり」をたくさん感じた2年間でもあった。数々の助言をくださったリーダーや教授の先生方との出会い、同じ志を持ち、切磋琢磨した部員の先生方との出会いはかけがえのないものである。この出会いはさらに広いつながりをもたらしてくれた。8月に中英研のサマーワークショップで講師をさせていただいたことを始め、英語教師として成長するための舞台をたくさん用意していただけた2年間であった。未熟な自分であるが、2年間に出会ったすべての先生方と、自分の拙い授業に一生懸命参加し、盛り上げてくれた生徒たちに感謝したい。

4 技能を総合的に育成する指導の工夫・改善

～「話す活動」と「読む活動」の関連を持たせて～

葛飾区立桜道中学校主任教諭 前田 宏美

1 主題設定の理由

現行の学習指導要領において外国語科では、小学校で育成される音声面を中心として外国語を用いたコミュニケーション能力の素地の上に「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4つの技能をバランスよく育成し、これらの技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の基礎を育成することが求められている。授業における生徒のコミュニケーション活動の様子を見ると、「聞くこと」、「話すこと」については、外国語活動を通じて、英語で発表することにある程度慣れているという現状がある。そこで、本研究では小学校で慣れ親しんだ「話す活動」と中学校から行う「読む活動」の関連を持たせた言語活動を行うことで、これらの技能の統合的な活用を行うことができると考え、主題を設定した。

2 研究の概要

本研究では、ストーリーリテリングの活動を取り上げた。この活動は、題材について聞いたり読んだりして得た情報について説明をする発表活動である。学習指導要領の「読むこと」の指導事項に、「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり、賛否やその理由を示したりすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。」が追加されたことから、書き手の意向を理解し、自分の意見を加えて述べるように工夫した。また、教科書の題材について、内容理解をした上で、話す活動へと結びつけることにより、生徒がより深く題材の内容を理解できるよう、単元のまとめとして活動を行うこととした。

(1) 活動の目標

- ① 教科書本文の内容について、要点をおさえながら、自分の考えや感想を含め、まとめる。
- ② 仲間と協力して活動を行う。
- ③ プレゼンテーションの基本を身につける。

(2) 指導手順

- ① 題材の内容理解・・・場面や登場人物の心情を捉え、自分の意見や感想をもったり、考えを深めたりするよう指導する。
- ② 題材の音読指導・・・オーラル・イントロダクション、内容理解の確認の後、新出単語発音練習をし、入念に本文の音読を行う。
- ③ グループの設定・・・3～4人程度のグループとし、生徒の教え合いを促す。
- ④ 評価規準の提示・・・活動の主旨を説明し、評価規準を示す。生徒が目標をもって活動に取り組むことができるように励ます。
- ⑤ 個に応じた目標の設定・・・生徒は、活動の目的や評価規準を理解した上で個人の目標を設定し、発表準備にあたる。
- ⑥ プレゼンテーションの基本の提示

- (ア) アイ・コンタクト (イ) 絵や写真の示し方
(ウ) 話す声の大きさ (エ) 英語の発音、イントネーション

- ⑦ 発表準備・・・グループによる話し合いの時間を15分程度設定する。
⑧ 発表・・・各グループで発表を行う。
⑨ 自己評価・相互評価・・・生徒は評価用紙を使って、他のグループの評価と自己評価を行う。後日、他のグループからの評価を各グループにフィードバックする。
⑩ 発表内容の清書・・・発表内容を清書する。

3 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

このストーリーリテリングの活動では、各自の能力に応じた目標を設定することで、無理なく発表活動に取り組むことができ、発表活動への意欲の向上が見られた。

活動を繰り返し行う中で、プレゼンテーションの基本を使って効果的に発表することができるようになった。また、辞書を調べたり他の生徒が使った表現を活用したりするなどして、多様な表現を使うことができるようになった。

そして、3～4名程度のグループを基本として行ったことから、グループ内で教え合い、お互いの表現力を向上させることができた。

(2) 今後の課題

本研究の活動では、生徒の表現力を高め、考えや気持ちを相手に伝えることを目標としている。そこで、事前の英文の訂正は、相手に通じることを基本として最小限にとどめている。生徒の表現活動に対する意欲を維持するとともに正確な英文で発表させる工夫が必要となる。

また、実際のコミュニケーションにおいては即興性や連続性が伴う。そこで、ストーリーリテリングにより、ある程度分量のあるまとまった英文を読み、自分の意見を英語で話す活動に馴れさせるとともに、ALTや仲間と英語で対話をする機会を多く取り入れるなどして、話す活動をより実践に即したものに発展させていくことが課題となる。

最後に、音声によるコミュニケーションの基礎になるのは、日ごろの授業における音読指導であることから、指導者は普段の授業において、音読指導を充実させ、指導の工夫を行っていくことが必要である。

総務部報告

(総務部長 飯島 光正)

本年度も各部、地区幹事、部長名簿を作成し、全都の地区部長、地区幹事に配布した。年間事業は右記の通りである。①の定期総会は今年度も多くの参加者を集めるねらいで、時間帯を遅らせた。また、昨年度に引き続き講演会を桜美林大学教授の森住衛先生を講師にお招きし、実施した。②は、全英連中学部が主催し、本年度で5年目を迎えた。③の都中英研部長・幹事会は、今年度、新学習指導要領が完全実施されたことを踏まえ、「これからの中学校英語教育のあり方」と言う演題のもと、東京外国語大学教授の根岸雅史先生の講演会を実施した。30人以上が参加し、盛大に行われた。④の関ブロ茨城大会は11月9日(金)に茨城県日立市の日立シビックセンターを全体会会場に、また周辺中学校を分科会会場として開催された。一都八県で組織される関ブロは昨年の山梨大会に引き続いての茨城大会であった。大会テーマは「積極的にインタラクションできる生徒の育成をめざして」として、4つの分科会に分かれ研究の成果を発表した。当日は好天に恵まれ、約550名近い参加者が集まり、盛大に行われた。

今回は記念講演がなく、午前中には、各都県提案及び研究協議、午後に研究授業及び授業に関する研究協議という日程で行われた。

東京は第2分科会、『4技能を総合的に育成する指導の工夫・改善「話す活動」と「読む活動」の関連を持たせて』というテーマで、県外提案をした。発表者は前田宏美先生(葛飾区立桜道中学校)、また、指導助言者は東京都教育長指導部義務教育特別支援教育指導課の阿部大介指導主事が担当した。普段の授業実践をもとに、その成果を発表してくださった。次年度は群馬大会である。一人でも多くの東京都の先生が群馬大会で多くの研究成果を得、研鑽を積めるよう、事務局としても働きかけを工夫改善していきたい。

【年間事業】

- ① 5月 定期総会
 - ・資料作成 ・受付業務
- ② 7月 「第6回全英連中学部研究協議会」
 - ・受付業務
- ③ 各区市町村英語教育研究部長・幹事会
於：豊島区立千登世橋中学校
- ④ 関ブロ東京都事務局
 - ・11月15日(金)の関ブロ群馬大会参加事務
(後援申請、各県事務局との連絡、大会案内の発送、大会申し込み受付等)

事業部報告

(事業部長 横山 達也)

1. 第 28 回授業力アップ研修会

日 時：平成 24 年 11 月 1 日(木)

会 場：大田区立馬込中学校

授業者：三木 謙二郎 教諭

講 師：溪内 明 先生

(千代田区立九段中等教育学校主任教諭)

今年度の授業力アップ研修会は、大田区立馬込中学校を会場として行われた。文化祭などの学校行事で忙しい時期にもかかわらず、84名の参加があった。授業者の三木教諭は、東京都教師道場 20 年度生として 2 年間学んでいる。また、都中英研調査部員としても活動している。

今回のテーマは、「4 技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成の工夫」であった。三木教諭は、大きな声で指示を出し、生徒が英語を使って活動しやすい雰囲気を作っていた。ウォームアップでの Q&A では、教師と生徒がテンポよく英語でやりとりし、生徒が楽しく英語を使う姿が見られた。

言語材料は「疑問詞 where」であった。導入は前時に行われていたので、本時ではインフォメーションギャップを使ったペアワークを取り入れた。質問してわかったことを書かせるライティング活動をして、その後、教科書の内容理解を行ってから、音読練習に入った。4 技能のバランスが取れた、生徒が活動する場面の多い授業であった。

講師の溪内先生からは、授業を組み立てる上での指導手順について、指導していただいた。新教材の効果的な導入はどのような順序で行ったらよいのか、それはどのような考え方に基づいているのか、また、oral introduction や oral interaction を行うときにはどのような点に注意すべきか、というようなことを、三木教諭の授業に関連させて、わかりやすく説明して下さった。日頃の授業実践で、なぜこの活動をさせるのか、どのように活動させるのが効果的かを考えるよい機会になった。

今年度の研修会も、参加者がすぐ実践に活かすことができるものであった。来年度も、多くの先生方が参加していただき、授業改善に役立てていただきたい。

2. 第 65 回 英語学芸大会

日 時：平成 24 年 12 月 2 日(日)

会 場：豊島区立千登世橋中学校

英語学芸大会は、昨年度から豊島区立千登世橋中学校をお借りして開催している。新しい体育館で、暖房があるため、使わせていただけることに大変感謝している。会場校の教職員の方々には、さまざまな面でご協力をいただいた。また、出場校の先生方や中英研各部の先生方も協力して下さったおかげで、スムーズに進行することができた。

今年度もレベルの高いコンテストになった。審査員の先生方は、どの発表も真剣に評価するため、大変だったと思う。

スピーキングの部も、プレイの部も、生徒が英語を通して自分の主張や感情を豊かに表現しているのが印象的だった。指導された先生方の力が発揮されていた。

来年度の英語学芸大会も、多くの生徒が参加し、多くの方々が見に来てくださることを願っている。

大会記録

スピーキングの部(参加14校)

1位 If This Happens
宮木 梨乃
(杉並区立富士見丘中学校)

2位 What Is Life?
伊藤 似枝
(品川区立荏原第五中学校)

特別賞 Media & Young Generation
田中佳令奈
(港区立御成門中学校)

プレイの部(参加11校)

1位 Seize the Day 2012
都立小石川中等教育学校

2位 The Flowers That We Saw
With You
都立両国高等学校附属中学校

3位 Kageokuri
足立区立第十二中学校

特別賞 Dream After Dream
練馬区立豊玉中学校

審査員 Mr Edward Weinzierl (A L T)
Mr Jun Kodama
(日本英語検定協会)
重森 秀昭 先生
(文京学院大学中学高等学校)

調査部報告

Communication Test を終えて

(調査部長 五十嵐浩子)

◇平成 24 年度実施報告

平成 24 年度中英研コミュニケーションテストも多くの先生方のご支援とご協力を得て実施の運びとなったことにまずもって御礼申し上げたい。

今年度の実施状況は以下の通りである。

2 年 2,652 人 (22 校)

3 年 1,973 人 (18 校)

総計 4,625 人

昨年度と比較すると学校数が若干減少したものの、受験者数は 400 人程度増加した。しかしながら、全国学力・学習状況調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査、自治体単位での学力調査などが実施されている中でこのコミュニケーションテストを実施していただくには、問題の質的向上が一層求められていると実感する。

◇概要

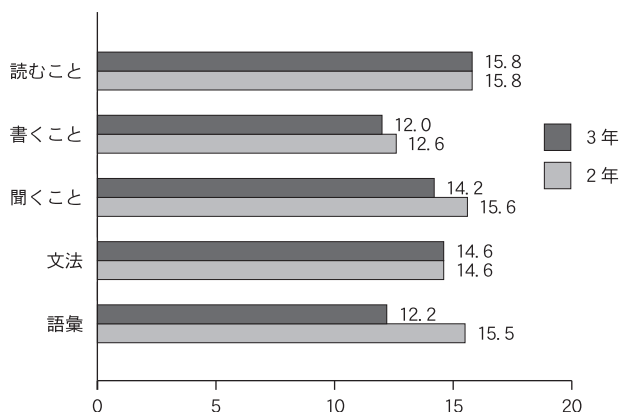
各学年の領域別平均点は次のようになり、「書くこと」に課題があることが今年度も明らかになった。

書くことについては、平成 22 年度から調査部員が直接採点しているが、無回答の多さ、時制や語順の誤り、不自然な文章構成などの問題点が依然見られる。

◇平成 25 年度に向けて

調査部員は、実際の生活場面を考慮し、そこで使われている言語をできるだけ多く使い、自然で適切であることを心がけてコミュニケーションテストを作成してきた。そこで、調査部が培ってきた作問における留意点をワークショップ形式で学んでいただく機会を 8 月 2 日に予定している。また、次年度は、前年度の学習内容の定着度をみるため 4～5 月実施のテストを作成中である。さらに、1 年生用にリスニングテストと意識調査を合わせたテストを新たに実施予定としている。

平成 25 年度テストへの参加及び年度当初の予算計上をぜひお願いしたい。



研究部報告

(研究部長 北原 延晃)

1. 夏の語り指導ワークショップ

今回で10回目を迎えるワークショップは3会場延べ150人もの先生方が参加され、盛況であった。

2. 今年度の研究内容

今年度は研究部員が実際に生徒に辞書を引かせて効果のあった具体的な実践事例を集めた。各事例では基礎データとして、学年、教科書名、レッスン名、セクション、指導時期、指導場面、生徒の反応、新語か否かを記載し、具体的に指導の様子がわかるようにした。そしてその実践事例を部会で報告し、意見交換をしながら本当に有効だったと思われる事例のみを厳選し、研究冊子に収めた。先生方もこの調査結果を参考にいただければさいわいである。研究の詳細は研究部ホームページ(<http://www.eigo.org/kenkyu>)で見ることができる。「都中英研研究部」で検索)

3. 公開授業および研究発表

2月22日に大田区立田園調布中学校にて公開授業および研究発表を開催した。同校の金子健次郎教諭が1年生の授業を行った。研究発表は中川智子教諭(大田区立大森第十中学校)が行った。指導助言は関西大学の田尻悟郎先生で、都内はもとより他県からも多くの参加者があり盛会だった。

プロジェクト・チーム部 報告

(プロジェクト・チーム部長
斉藤 節子)

今年度プロジェクトチーム部では、各地区でも多く取り上げられている『新学習指導要領の目標達成へにつながる指導法の研究～小中連携の充実を通して～』をテーマとして取り組んだ。音とリズムを中心とした小学校英語活動から文字を全面的に取り扱う中学校英語への接続には、文字指導に多くの課題を抱えているのが現状である。これらの課題解決と中学校英語の効果的な指導法についてのヒントとなるように、講師の先生を招聘し、2回の研修会を開催した。2回とも参加には厳しい時期ではあったが、多くの方々の参加があり、英語教育に対する熱い思いを実感した。

第1回プロジェクト・チーム部研修会

日 時：平成24年8月17日(金)
会 場：豊島区立明豊中学校
講 師：駒沢女子大学
太田 洋 教授

第2回プロジェクト・チーム部研修会

日 時：平成25年1月18日(金)
会 場：豊島区立明豊中学校
授業者：小林 博子 主任教諭
講 師：九段中等教育学校
田口 徹 主任教諭

出版部報告

(出版部長 池田 武男)

出版部では、「都中英研だより」を、例年通り、夏と秋の2期発行し年度末に本誌「都中英研会報」を発行した。これらの機関誌は、都中英研の活動内容を都内各中学校の英語科教員に広く知っていただくとともに、情報交換の場として、英語科教員相互の連携を深め、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のために役立たせることを目的としている。そして、これらの機関誌を都内の全中学校及び教育諸機関等へ配布している。また、別途「都中英研ホームページ」にも連携し、都外へも広く都中英研の活動を紹介するよう努めている。

今年度は、特に、年度末に発行する「都中英研会報」において、全ての地区からの活動報告が昨年度途絶えてしまった反省を受け、復活を目指した。(その結果については、編集後記を参照願いたい。)

具体的な活動状況は以下の通りである。

・「都中英研だより」第63号(7月19日発行)

都中英研会長挨拶、中英研総会報告、役員紹介、中英研年間事業計画、主な研究会・協議会の案内、中英研コミュニケーションテスト紹介、等を掲載した。

・「都中英研だより」第64号(12月20日発行)

各地区英語研究会の紹介(国分寺市の取り組み)、今年度上半期に行った中英研関

連(研究部・プロジェクトチーム部・事業部)の研修会の報告、等を掲載した。

・「平成24年度 中英研会報」第71号(3月上旬発行)

都中英研の年間活動報告や英語教育活動全般のまとめとして、都中英研会長所感、文科省・都教委英語教育関係所感、英語学芸会報告、都研修センター報告、各地区活動状況、中英研事業報告、各部活動報告、等を掲載し発行した。

部会は年5回開いた。「都中英研だより」と「都中英研会報」の編集企画会議や発送作業を行った。また、部員同士ではあるが、授業実践における疑問や悩みを相談し合い、課題を整理して日頃の授業実践に役立つ指導方法等の意見交換も積極的に行った。このような自己研鑽にも努め、有意義な部会運営ができた。

第 52 回 大都市公立中学校 英語教育研究会連絡協議会

仙台大会報告

開催日：平成 24 年 10 月 12 日（金）
会 場：ホテル白萩

重松 靖
（国分寺市立第三中学校長）

昭和 36 年、「英語指導の先進的な実践について相互に学び合い、自都市の英語教育に役立てる」ことを目的に名古屋市において、名古屋市、神戸市、東京都、大阪市、横浜市、京都市の 6 つの都市の公立中学校英語教育研究会が集まり第 1 回協議会が開催された。

以後政令指定都市の数も増え続け、今年度からは名称も「大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会」に改められ、新たに加入した岡山市を含め十五都市（さいたま市不参加）が参加し協議会が開催された。

1 研究主題

「自立した学習者を育む英語教育の在り方～4 技能を統合した指導を通して～」

2 各地区の取り組み

各地区の取り組みが報告されたが、特に生徒の意欲を喚起し総合的な英語力を高めるためのコンテストや大会について紹介する。

【札幌】英語暗唱大会（市、道）、高円宮杯英語弁論大会【仙台】英語暗唱・弁論大会（市、県）【千葉】英語指導法研究大会【横浜】英語弁論大会、高円宮杯英語弁論大会ブロック予選【名古屋】Nagoya English Contest（スピーチの部、スキットの部、

特別参加の部）【京都】中学校英語学習発表会（ステージ発表、英語暗唱、作品展示、小学校外国語活動部会も参加）【大阪】市長杯英語暗唱大会、イングリッシュ・フェスティバル（英語劇、スピーチ、展示発表等【堺】英語暗唱大会【神戸】プレゼンテーションコンテスト（教委主催）【広島】英語暗唱大会【北九州】イングリッシュ・フェスティバル【福岡】スピーチコンテスト

3 講演「技能統合型の英語授業はなぜ運用力を育てるのか」(村野井 仁 東北学院大学文学部英文学科教授)

今年度全面実施された学習指導要領では「4 技能を総合的に育成する指導を充実する」ことが求められている。

村野井教授は技能統合型の授業を「意味のある事柄について英語で理解したり、自ら調べたりすることによって、その事柄についての知識や考えを深め、その事柄の概要や自分の考えを英語で表現し、伝え合う授業」と定義し、単なる技能の習得だけではなく、知識や価値観・人生観をも含んだものにしなければならないと力説している。例として Read/Listen and Talk/Write といった題材内容を重視した Read and Talk タイプ、Study and Write/Talk → Listen and Talk といった「調べ学習」を含んだプロジェクト型の Study and Talk タイプの活動を紹介された。

技能統合型授業を通して 4 つの C, Content, Communication, Cognition, Community を育てるという村野井教授の言葉が印象に残った。

第 62 回全国英語教育研究団
連合会総会

第 62 回全国英語教育研究大会
(全英連) 石川大会の概要

全国英語教育研究団体連合会副会長
同中学部会長 阿字 宏康
(荒川区立第一中学校長)

本年度実施された全英連石川大会の概要について以下のとおり記す。

- 1 日時 平成 24 年 11 月 23 日 (金)
24 日 (土)
- 2 場所 第一日 23 日 (金)
石川県立音楽堂
第二日 24 日 (土)
金沢学院大学 2 号館・4 号館・5 号館
※大会前日の午後には全国理事会が行われ、各地区から本年度の研究実践の概要が報告され、今回の趣旨説明がなされ、意見交換を行った。
- 3 大会のテーマ (目的)
「学ぶ喜び 教える楽しさ 意欲を育む英語教育の探究」を大会コンセプトとして、今後の英語教育のあり方を考える。
- 4 内容

第一日 総会後の記念講演

講演者 演題

「生涯学習につながる英語教育」

講師 清泉女子大学教授 大杉 正明氏

講演は主に英語によってなされた。NHKの英語番組等にかかわってきた氏の軽妙洒脱で語り口で英語をいかに楽しく学ぶか、いかに楽しく教えるかということについて、具体例を交え分かりやすく

かつ英語教師が元気を出して生徒と授業を創ることについて提示をしていただいた。特に教師自身が楽しく英語を学び続けることの重要性を強調していた。

講演の後には、小学校の授業について二つのビデオ視聴を含め発表・報告がなされた。その一つの主題は「子どもたちが進んで聞いたり話したりしたくなる授業の工夫」であり、小学校における英語学習が中学校との接続として研究開発学校が全国に実施される頃から英語学習に力を注いできた石川県の継続的な取り組みが成果を生んでいることが示された。

この後は、中学校授業ビデオ発表「学んだことを知識や技能として定着させるための方策」がなされた。ALTを活用して積極的に他者と意思疎通を図ろうとする生徒の姿勢が印象的であり、自然な流れで取り組ませる工夫が示された。

高等学校の授業実演はこの後にあり、全体としての質疑応答で終わった。

第二日は、校種別に二部構成からなる分科会が行われた。

5 石川大会を振り返って

教科書が厚くなっていかに主体的な学習者を育成するかが大きく問われる。この点でテーマである生涯学び続けることの意義を本年の東京大会でも意識したい。

第36回関東甲信地区中学校 英語教育研究大会 (茨城大会)

総務部長 飯島 光正

テーマ

「積極的にインタラクションできる
生徒の育成をめざして」

～外国語活動ではぐくまれた素地を基にして、4
技能を総合的に育成する指導の工夫・改善～

1. 期 日

平成24年11月9日(金)

2. 会 場

日立シビックセンター

3. 大会日程

9:00 受付

9:30 開会行事・全体会

10:20 各都県提案・研究協議

12:00 昼食・移動

13:40 公開授業

14:30 休憩

14:50 授業に関する研究協議

15:50 閉会行事

4. 参加者総数

約550名

5. 分科会

＜共通テーマ＞

4技能を総合的に育成する
指導の工夫・改善

(1) 第1分科会

「話す活動」と「書く活動」の関
連を持たせて

県外提案 埼玉県、長野県

(2) 第2分科会

「話す活動」と「書く活動」の関
連を持たせて

「話す活動」と「読む活動」の関
連を持たせて

県外提案 神奈川県、東京都

(3) 第3分科会

「話す活動」と「読む活動」の関
連を持たせて

県外提案 栃木県、山梨県

(4) 第4分科会

「話す活動」と「聞く活動」の関
連を持たせて

県外提案 千葉県、群馬県

(5) 特別分科会

外国語活動を楽しみ、積極的にコ
ミュニケーションを図ろうとする態
度の育成

県外提案 埼玉県、茨城県

6. 公開授業

(1) 第1会場 日立市立大久保中

授業者 大久保中 長南 隆教諭

指導助言 森山修一指導主事

(2) 第2会場 日立市立駒王中

授業者 駒王中 磯部 有香教諭

指導助言 菊池 彰指導主事

(3) 第3会場 日立市立日高中

授業者 日高中 沼田公則教諭

指導助言 増田 晃指導主事

(4) 第4会場 日立市立大久保小

授業者 大久保小

小貫ひろみ教諭

大久保小

上林 規子教諭

各地区の活動状況

千代田区	32左
中央区	32右
港区	33左
新宿区	33右
文京区	34左
台東区	34右
墨田区	35左
江東区	35右
品川区	36左
目黒区	36右
大田区	37左
世田谷区	37右
渋谷区	38左
中野区	38右
杉並区	39左
豊島区	39右
北区	40左
荒川区	40右
板橋区	41左
練馬区	41右
足立区	42左
葛飾区	42右
江戸川区	43左
八王子市	43右
立川市	44左
武蔵野市	44右
三鷹市	45左

青梅市	45右
府中市	46左
昭島市	46右
調布市	47左
町田市	47右
小金井市	48左
小平市	48右
日野市	49左
東村山市	49右
国分寺市	50左
国立市	50右
福生市	51左
狛江市	51右
東大和市	52左
清瀬市	52右
東久留米市	53左
武蔵村山市	53右
多摩市	54左
稲城市	54右
あきる野市	55左
西東京市	55右
羽村市・西多摩	56左
大島町	56右
八丈町	57左

千 代 田 区

I. 研究主題

「少人数制をいかした授業研究」

～生徒に応じた指導法の工夫～

II. 研究の経過

◇6月 情報交換会

◇8月 自主研修

◇9月 英語部会

◇10月 授業研究（麴町中学校）

◇11月 情報交換会

◇12月 研究のまとめ

◇1月 講演、講義

「生徒の英語学力の現状と

授業改善の視点」

講 師：神奈川大学教授

高橋一幸先生

◇2月 ベスタロッヂ祭

（神田一橋中学校主幹教諭 鈴木達彦 記）

中 央 区

I. 研究主題

「4技能を総合的に育成する指導の工夫」

II. 研究の経過

◇4月11日

組織作り、研究主題決定

年間活動計画作成

◇6月27日

スピーキングテスト原案検討

◇9月26日

スピーキングテスト内容検討、

日程調整、役割分担

◇10月15日～11月30日

スピーキングテスト実施

◇10月24日

2学年研究授業

授業内容：New Crown 2 We're Talking 5

授 業 者：大沼俊太郎教諭

大林泰任教諭

山根木奈津子教諭

（日本橋中学校）

◇1月11日

3学年研究授業

授業内容：New Crown 3 Lesson6

授 業 者：大胡真嗣教諭

（晴海中学校）

講 師：世田谷区教育委員会

岡部正直先生

◇2月22日

今年度の反省

（晴海中学校主幹教諭 和泉広恵 記）

港

区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力を高める指導の工夫」

～小中連携を踏まえて～

II. 研究の経過

◇5月9日（水）研究主題決定、組織づくり

◇5月16日（水）年間活動計画決定

◇6月13日（水）研究授業、講演
【小中合同部会】

授業者：花本宣広 教諭

講師：東京都教職員研修センター
林 宣之 指導主事

講演「小中連携における外国語活動（英語）の円滑な連携の在り方」

◇9月12日（水）【小中合同部会】
講演「外国語活動と中学校英語科の連携の在り方」

講師：文部科学省初等中等
教育局教育課程課
直山木綿子教科調査官

◇11月14日（水）英語発表会
（於高輪区民センター）

審査委員長：Mr. Jonathan Goff

◇1月16日（水）実践報告、英語発表会のまとめ

◇2月13日（水）区教研研究発表会今年度のまとめ
（高陵中学校長 新庄恵子 記）

新

宿

区

I. 研究主題

「新学習指導要領を踏まえた指導の工夫・指導と評価の一体化」

①小中連携を踏まえた英語指導の工夫

②新学習指導要領に即した授業改善と指導法の工夫

③デジタル教科書等ICTの活用

II. 研究の経過

◇5月9日新中教研一斉部会
組織作り・研修テーマ・計画決定等

◇5月31日授業研究（於：落合中）
授業者：二宮正男主幹教諭

◇7月29日夏季英語部研修会（全日）
講師：竹田秋人先生（午前）
（新宿区国際理解教室長）

笹村元康講師（午後）
（東京書籍ICT事業開発室）

午前「ALT授業の現状と課題」

午後「デジタル教科書の使用法と授業の実際」

◇8月19日
第28回新宿区英語学芸発表会

◇10月10日一斉部会（於：西新宿中）
講師：井原章行教諭（西新宿中）

「デジタル教科書の指導の工夫」

◇12月13日授業研究（於：西早稲田中）
授業者：坪田千尋教諭

講師：吉田研作教授
（上智大学言語教育研究センター長）

◇2月 授業研究（於：新宿中）

授業者：山崎美砂子教諭
（牛込第一中学校主幹教諭 関実 記）

文 京 区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力を育成するための指導の工夫」

II. 研究の経過

◇5月9日

英語部組織作り、研究主題決め

◇11月23日・24日

全国英語教育研究団体連合会参加
田村茂雄教諭（本郷台中学校）

◇11月27日

研究授業・研究協議会

授業者：月川美津子主任教諭・平間
健治教諭・渡辺茂教諭
（文京三中）

講 師：和田雅光先生（本郷台中）

内 容：1年Lesson 7 New Year 日本
のお正月

内 容：「生徒一人一人が積極的にコミュニケーション活動に参加できる授業を目指して」というテーマで、習熟度別少人数の授業であった。

◇1月24日

区中研英語部会：ワークショップ

内 容：今年度から本区で使用されている『TOTAL ENGLISH』の教科書を用いたワークシート等の紹介を行った。学年別に分かれて、各部員のワークシートは多岐に富んでおり、大変興味深い内容で、来年度以降の教材研究の一助となった。その後、本郷台中の田村茂雄教諭より、参加した全英連大会の内容報告があった。

（茗台中学校主幹 阿久津仁史 記）

台 東 区

I. 研究主題

「新学習指導要領完全実施
における課題と実践」

II. 研究の経過

◇4月11日 組織作り等

①役員選出

②年間予定確認

③研究主題決定

◇6月20日 授業研究

①各校での実践報告

②教材の共有化

◇9月12日 英語学芸会検討会

・英語学芸会内容検討

◇10月10日 研究授業・協議会

・授業者：大島明人 主任教諭
（浅草中学校）

・授業内容：New Crown 1 L. 5

・講 師：白百合女子大学
倉住 修 准教授

◇11月1日 連合英語学芸会

会 場：生涯学習センター
ミレニアムホール

・レシテーションの部

・スピーチの部

・今後の運営等に向けての協議

◇2月6日 区中研 研究発表会

（柏葉中学校主任教諭 石川彰子 記）

墨 田 区

I. 研究主題

「語彙力を高める指導の工夫」

II. 研究の経過

◇4月18日 区中研総会・一斉部会

①役員選出、組織づくり

②研究主題、年間活動計画の検討

◇6月27日 区中研前期研究授業

・授業者：足立直子 教諭

畑中 恵 教諭

Brad Antonievich (NT)

(墨田中学校)

・単元名：1年

「楽しい昼休み」

・講師：杉本 薫 先生

(都立両国高校附属中学校主任教諭)

◇7月25日 区中研英語部夏季研修会

①会場：寺島中学校

②内容：語彙アクティビティの紹介、
中学校での語彙力の向上についての協議、
グループごとに実践発表

③講師：Michael Youn 先生

(アイエック英語教育相談員)

◇11月28日 区中研後期研究授業

①授業者：谷久彰英 教諭

(錦糸中学校)

②単元名：1年

「ケーブルカーに乗って」

③講師：越智奈央子 先生

中永みどり 先生

(東京書籍株式会社)

◇2月13日 区中研 研究発表会

(寺島中学校長 田谷至克 記)

江 東 区

I. 研究主題

(1)基礎学力の充実を目指した指導と評価
の工夫 (小学校の英語活動と結びつけ
て)

(2)新学習指導要領のねらいを活かした指
導と評価

II. 研究の経過

◇5月7日 区中研一斉部会

・会場：大島西中学校

・内容：活動計画、組織作り

◇6月19日 区中研前期研究授業

・授業者：丹呉優子 教諭

(深川第二中学校)

A L T : Nick Weston

・単元：「日本文化へのプレゼンテー
ション」

◇7月24日～27日 夏季集中講座

外国人講師によるワークショップ

・場所：British Council

◇10月17日 区研究後期研究授業

・授業者：根本賢哉 教諭

(第三亀戸中学校)

・単元：3年 関係代名詞

◇11月6日 江東区英語学芸会

・会場：江東区カメラアホール

・内容：speech、play、others

・play部門 “The Little Princess”

都大会出場 深川第三中学校

◇11月19日 小学校英語研修会

◇2月6日 区中研一斉部会

・「これから英語劇に取り組みようとする指
導者へ」

(深川第八中学校教諭 宇佐見京子 記)

品川区

I. 研究主題

「小中一貫教育における具体的な指導の
在り方」

～9年間の系統性を明確にして～

II. 研究の経過

- ◇4月18日、5月9日
目標・計画・組織づくり
- ◇6月6日 研究授業（荏原第五中）
授業者：白井みどり 教諭
講師：千葉大学 本田勝久 准教授
- ◇7月4日 研究授業（八潮学園）
授業者：平林良友 教諭
講師：研修センター 山本展子前教授
- ◇9月6日 研究授業（大崎中）
授業者：青山麻希 教諭
- ◇10月10日 研究授業（小山台小）
授業者：大滝さつき 主任教諭
講師：千葉大学 本田勝久 准教授
- ◇11月13日 中学校学習成果発表会
- ◇11月14日 研究授業（大間窪小）
授業者：木全ふみ子 教諭
講師：千葉大学 本田勝久 准教授
- ◇11月22日 小学校学習成果発表会
- ◇12月5日 研究授業（旗台小）
授業者：三神礼雄 主任教諭
講師：研修センター 山本展子前教授
- ◇1月9日 研究授業（大井第一小）
授業者：高橋直之 教諭
講師：玉川大学 佐藤久美子 教授
- ◇2月6日 研究発表会
一年間の活動のまとめ
学力向上を図るための調査報告
研究大会・海外派遣研修報告 他
(日野学園副校長 高橋美香 記)

目黒区

I. 研究主題「確かな学力を身に付けさせる指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月11日 研究目標、研究計画、
研究組織づくり
- ◇7月11日 入門期の実態調査
授業アイデア集情報交換
- ◇11月7日 スピーチコンテスト
審査員・講師 坂下孝憲先生
(北区教育委員会英語教育アドバイザー)
目黒八中3年生優勝
- ◇11月9日 関プロ茨城大会1名参加
- ◇12月12日 研究授業
目黒中央中 伊藤千瑛 先生
講師：工藤洋路先生(東京外国語大学)
- ◇1月9日 小中連携の外国語指導モデル
カリキュラム検討
- ◇2月6日 1年間のまとめ
関プロ報告
学力向上を図るための調査報告
講演会
講師：松岡敬明校長(武蔵野一中)
「授業改善に向けて」
(まとめ)
中学校入門期の実態調査を継続実施した。
新教科書の活用方法や授業改善について多
様な工夫を共有することができた。
目黒区小中連携モデルカリキュラムをも
とに入門期の指導内容を研究できた。小学
校への出前授業も増えている。合同の研修
会ももてた。連携をさらに進めていきたい。
(第四中学校長 牛島順子 記)

大 田 区

I. 研究主題

「分かったことを表現する力を高める指導」

II. 研究の経過

- ◇4月18日 一斉部会（大森七中）
- ◇9月18日 研究授業（御園中）
授業者：北野啓太郎 教諭
講 師：文教大学 阿野幸一 教授
- ◇10月10日 小中一貫（仲六郷小）
授業者：大久保雅人 教諭
講 師：(株)三菱商事 山本新治 室長
- ◇11月1日 都中英研
授業力アップ研修会
授業者：三木謙二郎 主任教諭
講 師：九段中等教育学校
溪内 明 主任教諭
- ◇11月8日 連合学芸会
会 場：大田区民センター
スピーチ23人及び劇等5校が発表
- ◇12月10日 研究授業（大森三中）
授業者：細谷孝幸 教諭
講 師：玉川大学 佐藤久美子教授
- ◇2月6日 一斉部会（大森七中）
講演会
講 師：上智大学 吉田研作 教授
- ◇2月22日 都中英研 研修会
（田園調布中）
授業者：金子健次郎 教諭
講 師：関西大学 田尻悟郎 教授
（大森第七中学校長 原田承彦 記）

世 田 谷 区

I. 研究主題

「世田谷9年間の充実をめざして」
～小学校英語を踏まえた、中学1年導入期から前期終了までのコミュニケーションを主体とした言語活動の工夫～

II. 研究の経過

- ◇5月9日 世中研総会
- ◇6月6日 前期研究会：授業研究会
授業者：南陽子教諭（深沢中学校）
講 師：港区立赤坂中学校
北原延晃 教諭
- ◇8月3日 夏期研修会（梅丘中学校）
ALTの効果的な活用についてのワークショップ
- ◇9月21日 2学期授業研究会
授業者：片淵みずほ 教諭
（船橋希望中学校）
- ◇10月19日 授業公開・研究発表
（梅丘中学校）
- ◇11月7日
第23回スピーチコンテスト本選
（成城ホール）
- ◇11月9日 国公立立交流会
授業者：八宮孝夫 教諭
（筑波大学附属駒場中学校）
- ◇1月23日 世中研 研究発表会
（区民会館）
（富士見中学校教諭 満留桂子 記）

渋谷区

I. 研究主題

「新学習指導要領全面実施に伴う課題と改善策～小学校外国語活動との連携の在り方～」

II. 研究の経過

◇5月9日(水)

渋谷区立中学校教育研究会総会
一斉部会、組織編成、研究主題確認研究
授業者、学校の決定

*各校で研究実践を積み重ねる

◇11月7日(水) 一斉研究授業

授業者：岡田綾子 主任教諭
(松濤中学校)

内 容：「小学校外国語活動を意識した
中学1年生の授業実践」(チャ
ンツ活用場面で阿部先生とのT
T授業)

研究協議：8校英語教員にて協議
指導・助言・講演

阿部フォード恵子 先生
(言語文化教育スペシャリスト、
聖学院大学講師)

講 演：「小学校外国語活動と中学校英
語授業の連携をどう図るか」

*次年度研究授業校(渋谷本町学園)

◇東京都英語学芸大会参加

参加校 予定なし

◇2月13日 研究紀要にて紙上発表

(松濤中学校長 鈴木富樹 記)

中野区

I. 研究主題

「全ての生徒が生き生き参加できる授業
の工夫～新学習指導要領にも基づいた授
業デザイン～」

II. 研究の経過

◇4月18日 中野区中教研英語部会

・今年度の方針及び組織作り

◇6月13日 中野区中教研英語部会

内 容：「TOTAL ENGLISH NEW
EDITIONの構成と特色」

講 師：嶋本 誠(学校図書編集部長)

・教科書の構成と特色

◇8月20日 中野区中教研英語部会夏季研
修会

内 容：「教科書を使った効果的な指導
法」

講 師：山本喜世子 先生(八王子立第
五中学校)

◇10月17日 中野区中教研研究日 研究授
業と研究協議

授業者：亀山真由美 先生

野田仁 先生(中野区立第五中
学校)「習熟度別少人数指導実
践研究推進校研究発表会研究授
業」

◇11月3日 中野区英語学芸会

野方W I Zホールにて5校10組が参加
区立中野中学校が中野区代表として東京
都大会に劇部門で出場

◇2月13日 中野区中教研研究発表会

内 容：「新しい授業デザイン」(予定)

講 師：瀧沢広人 先生(埼玉県秩父郡
小鹿野小学校)

(北中野中学校主任教諭 梅田一行 記)

杉 並 区

- I. 研究主題「4技能を総合的にはぐくむ指導の工夫」
- II. 研究の経過
- ◇4月18日 杉並教育研究会一斉部会
研究主題・組織・年間計画
 - ◇7月17日 認定講師公開師範授業
授業者：芳賀逸子 先生（和田中）
 - ◇8月1日～3日 夏季ワークショップ
1日午前「Brush Upのための
Intermediate Intensive Course 1」
午後「歌を使った文型指導の工夫」
講 師：Mr. Nicolas Carter (British
Council)
2日午前「定期考査作成のワークショッ
プ」
講 師：山本展子 先生
午後「フォーカス・オン・フォームを
取り入れた新しい英語教育」「統合型」英
語授業にはこのアプローチ！」
講 師：和泉伸一 先生(上智大)
3日午前「ALTとのモデル授業の提案」
講 師：石川史子 先生（済美教育セン
ター）、Mr. Ryan Furfaro (Interac)、
川谷ゆかり 先生(神明中)
午後「教科書の使い方Q&A」
講 師：佐藤博様（開隆堂）坂田輝久様
（東京書籍）
 - ◇10月30日 研究授業
授業者：宮口真太郎先生（井草中）
 - ◇11月4日 英語学芸発表会14校160名
参加。優勝「If This Happens」宮木利
乃さん（富士見ヶ丘中学校）都大会優勝
 - ◇1月23日 研究授業
授業者：川谷ゆかり 先生（神明中）
 - ◇2月8日 認定講師公開師範授業
授業者：春日陽子 先生(西宮中)
 - ◇杉並区リスニングコンテスト1・2年生
参加
(井草中学校長 池田武男 記)

豊 島 区

- I. 研究主題
「小中連携を生かした中学校英語指導の
あり方」
- II. 研究の経過
- ◇4月18日 区中研一斉部会
組織づくり、研究主題、年間活動計
画、全英連、関ブロ、英語学芸大会の確
認
 - ◇11月7日 区中研小中一斉部会（千川中
学校）
・研究授業（中学2年）
研究主題：小中連携を生かした中学校英
語指導のあり方
授業者：天野俊子 先生
（千川中学校主任教諭）
単 元：Junior High School
in America
・研究協議：小中合同による協議
・指導・講評：渡邊寛治 先生
（文教学院大学客員教授）
 - ◇11月9日 関ブロ大会参加
 - ◇11月23日 全英連大会参加
 - ◇12月2日 英語学芸大会
会 場：豊島区立千登世橋中学校
参加校：明豊中がPLAYの部に参加
（池袋中学校主幹教諭 菅野宏治 記）

I. 研究主題

「小学校の外国語活動を受けて、実践的コミュニケーション能力の向上をめざした授業の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月25日 北区教育研究会英語・外国語活動研究部 中学校部会
組織作り、研究目標、活動計画、小中一貫カリキュラム、情報交換
- ◇5月23日 北区教育研究会英語・外国語活動研究部 小中合同部会
- ◇11月9日 連合英語学芸会
場 所：北区立滝野川会館
参加者：10校16名
最優秀生徒（桐ヶ丘中3年）
東京都英語学芸大会に参加。
- ◇11月28日 中学校研究授業
授業者：川和大純 教諭（浮間中）
対 象：中学校1年
単 元：L.7 Wheelchair Basketball
講 評：外国語教育アドバイザー
坂下孝憲
- ◇12月2日 東京都英語学芸大会
英語スピーチ参加
- ◇1月16日 小中合同分科会
指導案検討、ICTの活用法
- ◇2月14日 中学校研究授業
授業者：山縣晶子 主任教諭（田端中）
対 象：中学校1年
単 元：過去形の復習
講 師：外国語教育アドバイザー
宗方隆三
(堀船中学校副校長 石川慎一郎 記)

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」～新学習指導要領と新教科書を踏まえて～

II. 研究の経過

- ◇4月18日（水）部づくり
上記研究主題を設定した。また本年度の活動計画と係分担等を行った。
- ◇6月20日（水）講演会
講 師：東京外国語大学 工藤洋路氏
テーマ「新しいNew CrownにおけるUSE Readの扱い方」
- ◇8月ワールドスクール（小中）
会 場：清里高原少年自然の家
- ◇9月19日（水）中高合同部会
会 場：諏訪台中学校
「人称代名詞&人称代名詞格変化」
- ◇スピーチコンテスト
会 場：サンパール荒川小ホール
- ◇11月19日（水）小中合同部会
会 場：原中学校
授業者：駒澤正人教諭、串橋美咲教諭、原田高志教諭
単元名：What time is it now?
- ◇1月16日（水）小中合同部会
会 場：第三瑞光小学校
テーマ：世界の国々を学ぼう
- ◇2月20日（水）研究発表大会
会 場：第四峡田小学校
テーマ：研究発表。各校5分間本年度の研究成果を発表する。
講師：東京外国語大学 工藤洋路氏
(原中学校教諭 原田高志 記)

板 橋 区

I. 研究主題

「小学校外国語（英語）活動を踏まえた英語指導の充実」

II. 研究の経過

- ◇ 4月18日 区中研一斉部会
役員選出、研究主題・年間活動計画等の決定
- ◇ 6月14日 第1回授業研究
「Phonics、デジタル教材の活用」
授業者：柴田則子（板橋五中）
- ◇ 8月3日 夏季ワークショップ
「英語科における問題解決的な活動」
- ◇ 11月8日 「英語のつどい」
会 場：板橋区立アクトホール
参加校：16校（スピーチ、劇 等）
- ◇ 11月14日 第2回授業研究
「習熟度別少人数指導の在り方」
授業者：織戸・石河・一色（志村五中）
- ◇ 1月21日 第3回授業研究
「ICT機器の活用」
授業者：福島美記子（高島三中）
助 言：「英語科の授業改善」杉本薫先生（都立両国高等学校附属中学校）
- ◇ 2月7日 区中研教職員研究発表会
 - 英語部会研究発表
 - ①「基礎学力の向上」(板橋二中)
 - ②『『聞く・話す』だけでなく、『読む・書く』を充実させる授業』(高島二中)
 - ③「小・中連携英語科授業の実践」
(志村三中)
 - 「リーディング指導の工夫・改善」
講 師：山梨大学大学院教育学研究科
田中武夫准教授
(赤塚第二中学校長 稲葉秀哉 記)

練 馬 区

I. 研究主題

「基礎・基本の定着を図り、コミュニケーション能力の基礎を培う。また学習指導要領を踏まえた授業研究を行う。」

II. 研究の経過

- ◇ 5月16日 区中研一斉部会
- ◇ 6月20日 授業研究会（石神井中）
授業者：永井玲子 主任教諭
- ◇ 7月31日・8月1日 夏期研修会
 - * 「コミュニケーション能力の伸長」
講 師：服部孝彦 先生
(大妻女子大学同大学院教授)
 - * 「課題解決型の言語活動の必要性」
講 師：高島英幸 先生
(東京外国語大学教授)
 - * 「英語嫌いをつくらない授業展開」
講 師：明石達彦 先生
(江戸川区立西葛西中学校主任教諭)
 - * 「小学校の外国語活動の実際」
講 師：練馬区小学校教育会
外国語活動研究部会の先生方
木村一美 主任教諭
(大泉第四小)
中川智栄子 教諭（旭町小）
濱元雅俊 教諭
(小中一貫教育校大泉桜学園)
- ◇ 10月20日 英語学芸会
会 場：生涯学習センター
“The dream that woke from a dream”
(豊玉中)
都大会出場、特別賞受賞
- ◇ 11月7日 授業研究会（開進第三中）
授業者：相澤史彦 主任教諭
(豊溪中学校教諭 木須聖子 記)

足 立 区

I. 研究主題

「4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成～小中連携をふまえて～」

II. 研究の経過

- ◇4月18日 一斉教科部会（第十中）
 - ・研究テーマ、事業計画作成および組織作り
- ◇6月13日 第1回研修会 小中合同研修会（千寿本町小）
 - ・4技能統合について・小中連携について
 - 講師：文部科学省 平木 裕 先生
- ◇7月18日 第2回研修会 第1回研究授業（第六中）
 - 授業者：第六中 紺野正典 教諭
 - 講師：蒲原中学校校長 石鍋 浩 先生
- ◇7月26日 第3回研修会 夏季研修会（第十四中）
 - ・4技能統合・スピーキング指導・テストティング
 - 講師：文部科学省 平木 裕 先生
第六中 紺野正典 先生
- ◇9月12日 第4回研修会 小中合同研修会（皿沼小）
 - 小学校研究授業・連合英語学芸会検討会
- ◇10月17日 第5回研修会 第2回研究授業（東綾瀬中）
 - 授業者：東綾瀬中 豊岡和俊 教諭
 - 講師：明海大学名誉教授
和田 稔 先生
- ◇10月25日 連合英語学芸会（足立区庁舎ホール）
 - ・スピーチの部 優勝 加賀中
 - ・劇の部 優勝 第十二中
 - ※第十二中は都大会でも第3位に入賞しました
- ◇11月14日 第6回研修会 小中合同研修会（新田中、栗原北小）小中連携研究授業を2会場で実施
 - 講師：文部科学省 平木 裕 先生
直山 木綿子 先生
- ◇1月16日 第7回研修会 小中合同研修会 第3回研究授業（第十中）
 - 授業者：第十中 鈴木啓太 教諭
 - 講師：墨田区立墨田小学校副校長
西貝裕武 先生
- ◇2月6日 一斉教科部会（第十四中）
 - 今年度の研究成果の発表と講師による指導・講演
 - 講師 文部科学省 平木 裕 先生
（第十四中学校教諭 三輪政継 記）

葛 飾 区

I. 研究主題

「基礎基本の定着を図りながら、コミュニケーション能力の育成を目指す指導の在り方」

II. 研究の経過

- ◇4月17日 ALT導入全校説明会、割当調整会議
- ◇5月9日 葛中研全員部会
 - 事業報告、会計報告、役員選出、事業計画、予算案、情報交換
- ◇6月20日 第1回研究授業
 - 授業者：伊東卓思 教諭（新小岩中）
 - 講師：瀧沢広人 先生
（小鹿野小学校教諭）
- ◇10月11日
 - 第27回葛飾区立中学校英語スピーチ&プレイコンテスト
（かめありリリオホール）
 - 暗誦（6名）プレイ（2校）スピーチ1（9名）スピーチ2（23名）参加、スピーチ2優勝者（小松中3年）が都大会に出場した。
- ◇10月16日 第2回研究授業
 - 授業者：本田大輔 教諭（葛美中）
 - 講師：中澤徹也 先生
（四ツ木中学校 主幹教諭）
- ◇2月14日 第3回研究授業
 - 授業者：前田宏美 教諭（桜道中）
 - 講師：未定
- ◇3月22日
 - 役員会：年度末反省、次年度活動計画
 - 研修会：葛飾独自教材の活用
（本田中学校長 中野利彦 記）

江戸川区

I. 研究主題

「コミュニケーション能力の基礎を養う
指導計画・指導方法の工夫 一意図的・
計画的な若手教員の育成をとおして」

II. 研究の経過

- ◇6月19日 示範授業・若手教員研修会
授業者：講師 明石達彦 先生
(西葛西中学校)
内 容：生徒の思考の流れに沿った授業
の組み立てについて 他
- ◇8月21日 夏季研修会
会 場：西葛西中学校
講 師：小柳守生 先生
テーマ：英語授業の基礎基本
内 容：講義・演習「授業の作り方」
発 表：協議 他
- ◇9月18日 示範授業・若手教員研修会
授業者：講師 関口 智 先生
(清新第一中学校)
内 容：文法事項の指導の工夫 他
- ◇11月14日 示範授業若手教員研修会
授業者：講師 大内由香里 先生
(葛西第三中学校)
内 容：教科書を用いたオーラル・リブ
ロダクションの指導について他
- ◇11月～12月 スペリングコンテスト
実施校：全中学校全学年
表 彰：各校の基準に従って合格者に賞
状を授与する。
- ◇2月6日 区教研研究発表総会
発表者：安野壽美先生(小岩第一中学校)
坂元伸子先生(小岩第四中学校)
(松江第六中学校長 清野 正 記)

八王子市

I. 研究主題

「授業を通じた実践的な授業力・指導力
の向上」

II. 研究の経過

- ◇4月26日 役員会
主題設定、組織、活動計画確認
- ◇6月28日(木) 研究授業 第七中学校
授業者：横山達也 教諭
講 師：市内英語担当校長・副校長
- ◇7月25日(水) スキルアップ研修会
授業力・英語力のブラッシュアップ
「ネイティブ講師による英語力のブラッ
シュアップ」(演習)
講 師：Martin McCubbin氏(財)ELEC
- ◇11月7日(水) 一斉部会 研究授業
1ブロック
授業者：廣瀬光恵 教諭(第一中)
講 師：五十嵐浩子 先生
(小平市立小平第一中学校校長)
2ブロック
授業者：戸田礼子 主幹教諭
川澄 領 教諭(城山中)
講 師：市村裕子 先生
(東京都教職員研修センター研修部教育
開発課指導主事)
3ブロック
授業者：秋間富美子 教諭(由井中)
講 師：山本 武 先生
(八王子市教育委員会統括指導主事)
4ブロック
授業者：相沢雅子 教諭(南大沢中)
講 師：岩崎紀美子 先生
(八王子市立別所中学校副校長)
(陵南中学校副校長 竹内康裕 記)

立 川 市

I. 研究主題

「基礎・基本を身につけ、主体的に学ぶ力を育てる～新学習指導要領の全面实施のもと」

II. 研究の経過

◇5月9日 一斉部会

①組織作り

②研究主題と活動計画の作成

◇7月24日 研修会①

テーマ：①新学習指導要領で強調されている四技能の関連性

②ICT機器の活用

講 師：杉本 薫 先生

(都立両国高校附属中学校)

◇8月23日 研修会②

テーマ：①NEW CROWN編集の意図や効果的な活用法

②授業で活用できる教材の紹介

講 師：日臺滋之 先生

(玉川大学)

◇11月13日 研究授業

授業者：木下泰孝 先生

(立川第八中学校)

内 容：NEW CROWN Book1

3人称単数現在形の理解

講 師：大石 龍 校長

(町田市立忠生中学校)

◇2月13日 一斉部会

今年度のまとめ

次年度の研究内容・計画の決定

(第九中学校教諭 太田菜穂子 記)

武 蔵 野 市

I. 研究主題

「発信力を高める指導の工夫」

～外国語表現力の指導と評価～

II. 研究の経過

◇4月18日 教育研究会一斉部会
組織作り

◇5月9日 定例会

研究主題と活動計画の決定

A L T関係の情報交換

◇10月10日 定例会(基礎研究Ⅰ)

効果的なSpeakingの指導について

①話す中身を充実させるための工夫

②受信から発信への指導事例

◇11月9日 定例会(基礎研究Ⅱ)

効果的なWritingの指導について

①Group Writing指導事例

②生徒がよく間違える文法事項

◇1月16日 授業研究

内 容：「受け身」の文を使った表現活動

授業者：坪内英津子 教諭(三中)

大城伸一 教諭(三中)

講 師：東京外国語大学講師

工藤 洋路 先生

「発信力を高める英語の授業作りに向けて」

(第二中学校主幹教諭 二日市克 記)

三 鷹 市

I. 研究主題

「発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成～9年間の指導を見通して～」

II. 研究の経過

◇4月18日 鷹教研総会・一斉部会

①組織作り

②研究主題と活動計画の作成

◇5月9日 デジタル教科書研修会

◇6月13日 研究授業

単元名：“What subject do you like?”

授業者：福島健明主幹教諭（第六小）

講師：松永 透 先生（三鷹市教育委員会教育施策担当課長）

◇9月12日

①研究授業

単元名：“Can you play～?

Can you do this?”

授業者：加勢裕子 主任教諭（第五小）

②次回研究授業指導案検討

◇10月3日 研究授業

単元名：電話での応答

授業者：服部千里 教諭（第二中）

内山由紀江 教諭（第二中）

◇11月7日 研究授業

単元名：“I study Japanese.”

授業者：鈴木恭子 主任教諭（第二小）

講師：高橋美香先生（品川区立小中一貫校日野学園副校長）

◇1月16日 視察研修

会 場：品川区立小中一貫校日野学園

◇2月20日 まとめ・次年度計画

（第二中学校教諭 森山美由紀 記）

青 梅 市

I. 研究主題

「より良い授業の工夫と創造」

－小・中学校の連携を深め、生徒の英語の運用能力・理解力を高めるために－

II. 研究の経過

◇5月9日 中教研全体会・部会

◇10月15日 授業研究

・授業者：出口由香里（第三中）

・授業内容：三・単・現の導入

◇11月5日 授業研究

・授業者：岡村留深子（泉中）

・授業内容：不定詞で「夢」を

*姉妹都市友好使節団引率報告

◇12月6日 授業研究

・授業者：中嶋規乃（吹上中）

・授業内容：比較級と最上級

*デジタル教科書の活用法を協議

協 力：三省堂英語教科書編集部

◇1月16日 東京教師道場研究授業

・授業者：斎藤恭子（霞台中）

・指導講評：・伊藤 聡 先生（東京都教職員研修センター指導主事）

・山本崇雄 先生（都立両国高等学校附属中学校主幹教諭）

◇1月30日 授業研究

・授業者：鈴木奈津子（新町中）

・授業内容：副詞の比較級他

・指導講評：宇津木悦子先生（公営法人国際理解支援協会英語活動アドバイザー）

（青梅西中学校副校長 田中 眞 記）

府 中 市

I. 研究主題

「Speaking力を高める指導のあり方」

II. 研究の経過

◇6月13日 研究授業

授業者：府中第四中学校
小美濃博 教諭

内 容：授業開きのあり方と工夫

◇7月11日 英語活動合同研究授業

授業者：南町小学校 浅野 学 教諭
ALT Poe Mauldin

◇7月23日 講演

講 師：駒沢女子大学 太田 洋 教授
内 容：新しい教科書の編集方針とその
活用方法について

◇8月21, 22日 English Camp運営

◇9月12日 研究授業

授業者：浅間中学校 道姓千晶 教諭
講 師：小平市立小平第一中学校
五十嵐浩子 校長

◇11月14日 英語活動合同研究授業

授業者：府中第一小学校
渡部アヤ子 主任教諭

◇12月12日 英語活動合同研究授業

授業者：府中第六小学校
黒岩 禎 教諭

◇1月9日 ワークショップ

内容：Speaking能力を高める教科書の
活用法について

講 師：都留文科大学非常勤講師
安原美代 先生
(第三中学校主任教諭 深澤久木 記)

昭 島 市

I. 研究主題

「新学習指導要領に基づく授業改善につ
いて」

II. 研究の経過

◇4月18日 一斉部会

・研究主題設定、年間活動計画、組織づ
くり

◇5月25日 部会（清泉中学校）

・各校からワークシートを持ち寄り、工
夫、改善点を話し合う
・各校の情報交換

◇10月5日 研究授業

・授業者 拝島中学校
内山和幸 教諭

内 容：Total English Chapter 2
Lesson 5 ホール先生の家族

◇1月28日 部会

「小中連携について」
拝島第三小学校

◇1月31日 部会

「小中連携について」
玉川小学校

◇2月1日 部会

「小中連携について」
成隣小学校、玉川小学校

◇2月4日 部会

「小中連携について」
玉川小学校

(清泉中学校教諭 古瀬達也 記)

調 布 市

I. 研究主題

「生き生きと学び教えるために
—魅力ある授業法を実践例から学ぶ—」

II. 研究の経過

◇5月9日 調中研総会、一斉部会

- ・本年度役員の確認
- ・研究主題、活動計画の検討

◇6月13日

- ・授業実践の情報交換
- ・教科書編集部との意見交換

◇8月15日 研修会

「生徒を生き生きと活動させるための
授業の工夫」

講 師：谷口弘美 主任教諭
(立川市立第七中学校)

内 容：新学習指導要領を踏まえ、授
業の構成や発展的学習への取
り組みについて、日々の実践
を通じて、教えていただく。

◇10月10日 研修会

「文法事項の導入と授業の組み立て」

講 師：金枝岳春 教諭
(東京学芸大学附属竹早中学校)

内 容：文法事項の導入方法と、その
後の授業の組み立て方につい
て実演を含めた形で教えてい
ただく。

◇11月14日 公開授業、協議会

授 業 者：古川 悟 教諭
(調布第七中学校)

授業内容：ONE WORLD 1 Lesson 7

◇1月16日 研究成果のまとめ

◇2月6日 研究発表会

(神代中学校主任教諭 松尾奈保子 記)

町 田 市

I. 研究主題

「新学習指導要領についての指導方法の
研究」

II. 研究の経過

◇4月11日 一斉部会

- ・組織作り
- ・研究主題と年間活動計画

◇5月9日 定期総会

◇11月7日 講演会

テーマ：「学校図書“TOTAL ENGLISH”
の効果的な使い方、具体的なア
クティビティの紹介について」

講 師：山下貴世子 先生 (八王子市立
第五中学校)

内 容：教科書の編集に携わった、現役
の先生によるワークショップ
だったので、具体的なアクティ
ビティをいくつも知ることがで
きた。また、音楽やPCを授業
に簡単に取り入れる方法も紹介
いただき、すぐに授業で使って
みたいものばかりで、非常に有
意義な内容であった。

◇1月30日 (予定) 研究協議会

授業者：小川史哲 教諭 (町田市立第二
中学校)

(金井中学校教諭 今井由可 記)

小 金 井 市

I. 研究主題

「豊かなコミュニケーションの育成を目指して」

II. 研究の経過

- ◇4月 一斉部会
組織づくり、研究主題の設定
年間活動計画の作成
- ◇6月 研修会
ALT授業内容の検討
指導方法
・ワークシート等情報交換
- ◇10月 研究授業の打ち合わせ
- ◇11月 研究授業
東京学芸大学附属小金井中学校
講 師：小菅敦子 先生
(東京学芸大学附属小金井中学校教諭)
- ◇1月 講演会
講 師：金谷 憲 先生
(東京学芸大学教授)
- ◇2月 研究発表会
(緑中学校教諭 荻原真也 記)

小 平 市

I. 研究主題

「教科書完全活用法」
～習得から自己表現へ～

II. 研究の経過

- ◇4月18日 小平市教科等研修会一斉部会、研究主題・組織・年間計画
- ◇7月23日 夏期研修会1
「自己表現力を高める指導法の工夫」
講 師：太田 洋 先生(駒沢女子大学
人文学部教授)
- ◇7月24日 夏期研修会2
「4技能を総合的に育成する指導法の工夫」
講 師：谷口幸夫 先生(都立国分寺高等
学校教諭、英語達人セミナー
主幹)
- ◇7月27日 夏期研修会3
「教科書徹底活用法」
講 師：重松 靖 先生(国分寺市立第
三中学校校長)
- ◇9月19日 研究授業
授業者：河合由樹子 先生(小平第六中
学校)
講 師：太田 洋 先生(駒沢女子大学
人文学部教授)
- ◇10月17日 研究授業
小・中連携による外国語活動授業参観
授業者：島村勇次郎 先生(小平第四小
学校主幹教諭)
- ◇11月まとめ 研究内容の検討
小平市では今年度から小中連携教育が
本格的に実施の運びとなった。このこ
とから、隔年で小学校と中学校の授業を違
いに見合う取組が始まった。
(小平第三中学校 教諭 新島麻貴 記)

日 野 市

I. 研究主題

「表現力の育成を目指した
統合的な学習の充実」

II. 研究の経過

- ◇ 5月9日 中教研総会
- ◇ 6月13日 デジタル教科書活用研究
- ◇ 7月4日 授業研究①
授業者：日野市立三沢中学校
佐藤真雄 教諭
講 師：八王子市立第五中学校
山下喜世子 主幹教諭
- ◇ 8月28日 評価研究
講 師：国分寺市立第一中学校
相沢秀和 主任教諭
- ◇ 9月12日 授業研究②小中連携研究
授業者：日野市立日野第三中学校
大野菜々恵 教諭
講 師：新宿区立牛込第一中学校
関 実 主幹教諭
- ◇ 10月3日 授業研究③小中連携研究
授業者：日野市立平山小学校
梶井由紀子 教諭
講 師：日野市立日野第三中学校
石村康代 校長
- ◇ 11月16日 授業研究④
授業者：日野市立日野第四中学校
岩尾京子 教諭
講 師：八王子市立別所中学校
岩崎紀美子 副校長
- ◇ 2月13日 中教研研究発表
- ◇ 2月18日 小中高連携研究
(於東京都立日野高等学校)
(平山中学校教諭 樋口英美 記)

東 村 山 市

I. 研究主題

「教科書改訂に伴う授業づくりの充実
－指導実践と交流－」

II. 研究の経過

- ◇ 4月11日 統一部会 (北山小)
- ◇ 5月16日 定期総会 (中央公民館)
- ◇ 6月6日 授業実践の交流①
(3年を中心に)
- ◇ 7月7日 授業実践の交流②
(2年を中心に)
- ◇ 9月9日 授業実践の交流③
(1年を中心に)
- ◇ 10月10日 研究授業
授業者：池本心和教諭 (七中)
単 元：1年、Lesson7
疑問詞where, when
- ◇ 11月11日 小学校の外国語活動の
授業参観 (久米川東小)
授業者：中野 剛教諭
学 年：5年生
- ◇ 12月5日 研究授業
授業者：横井智弘教諭 (二中)
単 元：1年、We're Talking⑨
疑問詞which
- ◇ 1月9日 講義
「新教科書によるコミュニケーション活
動の指導について」
会 場：三中
講 師：日臺滋之教授 (玉川大学)
- ◇ 2月13日 研究発表会 (中央公民館)
- ◇ 3月6日 今年度のまとめ
(第四中学校教諭 土屋 修 記)

国 分 寺 市

I. 研究主題

「4技能を高めるための指導の工夫
ー活動のつながり（技能連携を意識し
て）」

II. 研究の経過

- ◇4月11日 市教研一斉部会
 - ・組織づくり
 - ・研究主題と年間活動計画決定
- ◇6月6日 授業研究
都立国分寺高等学校 第三学年
授業者：谷口幸夫 先生
テーマ：「英字新聞で学ぶ時事英語」
授業後に谷口先生に、読み取り
授業の指導の工夫や電子辞
書の活用についてのご講演を
いただきました。
- ◇10月10日 研究授業
国分寺市立第五中学校 第三学年
授業者：山内晶子 先生
授業内容：説明文の読み取り
- ◇1月16日 研究のまとめと発表準備
研究集録の検討
研究発表の計画
(第四中学校教諭 大越範子 記)

国 立 市

I. 研究主題

「コミュニケーション活動の充実を目指
す小・中連携」

II. 研究の経過

- ◇4月18日（水）組織編成・主題設定
- ◇5月9日（水）中学校教員による模擬授
業・アクティビティ紹介
- ◇6月提案授業指導案検討
- ◇6月6日（水）研究授業 研究協議
指導・講評
授業者：第二中学校
原田美希 教諭
- ◇7月23日（月）全体会
部会発表 模擬授業
授業者：第二中学校
蒲生明宏 主任教諭
- ◇9月12日（水）10月発表授業指導案検
討
- ◇10月24日（水）研究授業 研究協議
指導・講評
授業者：第六小学校
梅本佳恵 教諭
甲田由理 講師
- ◇1月23日（水）研究のまとめ
紀要作成
(第一中学校主任教諭 大石正隆 記)

福 生 市

I. 研究主題

「自ら考えて学ぶ児童・生徒の育成」
～小中9年間の連続性を意識して～

II. 研究の経過

- ◇4月18日 年間計画の作成
研究主題設定
- ◇6月6日 教材共有/教科書選定
- ◇8月9日 授業研究会
テーマ：「授業マネージメント」
講 師：瀧沢広人 教諭
(埼玉県小鹿野小学校)
内 容：瀧沢先生によるワークショップ
- ◇9月10日 市教研(研究授業)
テーマ：文法導入法・音読指導
授業者：桑田真帆 教諭(福生一中)
山中恭子 教諭(福生一中)
講 師：鈴木政治 先生
(西武文理大学)
内 容：Lesson4
It ~ for 人 to ……
- ◇12月26日 授業研究会
テーマ：「音読指導方法」
講 師：鈴木政治 先生
(西武文理大学)
内 容：鈴木先生によるワークショップ
- ◇1月23日 小学校研究授業
(小学校外国語部会)
授業者：高橋香織 教諭(福生五小)
研究授業協議会
- ◇2月13日 福生市(市教研・研究報告会)
(福生二中主任教諭 須田和也 記)

狛 江 市

I. 研究主題

「新しい教科書を使って」
～評価方法を考える～

II. 研究の経過

- ◇4月4日 一斉部会
英語部組織作り、研究主題決め
 - ◇5月7日 市内教研総会
 - ◇7月9日 部長会
 - ◇8月24日 部会
第一部：教科書の活用方法について
第二部：書画カメラ等、ICT機器の活用について
 - ◇10月15日 授業研究
授 業 者：津元佑実子 教諭
田頭敦子 教諭
福山裕希子 教諭(狛江二中)
授業内容：New Crown 1 Lesson 6
USE Mini-project
講 師：三省堂英語教科書編集部
副編集長 石田 興三氏
 - ◇11月14日 小学校授業研究
協議会テーマ：小中の指導内容、指導方法の連携について
 - ◇11月19日 部長会
 - ◇1月15日 部長会
 - ◇2月25日 研究・活動報告会
- ## III. 成果と課題
- ・情報交換や講師の話を通して、教科書の改訂ポイントや活用方法についての研修を深められた。
 - ・来年度はさらに評価項目や評価方法について詳しく研究を深めていくことが課題である。
(狛江三中主幹教諭 國井千鶴子 記)

東 大 和 市

I. 研究主題

「4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）をバランスよく身につけることをねらいとした言語活動」

II. 研究の経過

◇5月11日（水）一斉部会

①自己紹介

②代表者選出（部長 会計）

③研究主題の検討、活動方針、活動計画の作成

◇8月23日（木）研究会

講 師：東京学芸大学付属小金井中学校
大里信子 先生

- ・教科書編集にあたって
- ・新教育課程への対応
- ・教科書の活用、指導の重点

◇11月9日（水）

[第一部] 研究授業

授業者：日下部善哉 教諭
(東大和市立第一中学校)

単 元：Total English Book 1
Lesson 6

対 象：1年3組 14名(少人数授業)

場 所：3階 英語教室C

[第二部] 研究協議会および研修会

- ・授業者からの授業に関する解説
- ・各校の教員からの感想、およびアドバイス

(第一中学校教諭 柴崎千景 記)

清 瀬 市

I. 研究主題

「英語指導における小中連携のあり方」

II. 研究の経過

◇5月9日 一斉教科部会

- ・研究主題の決定
- ・活動計画、方法の確認
- ・情報交換

◇小学校英語授業見学：各中学校ごと学区内小学校

・清瀬第六小学校 6年2組

『道案内をしよう』

・清瀬小学校 6年2組

『道案内』

・清瀬第十小学校 6年3組

『英語劇 桃太郎』

・芝山小学校 5年1組

『アルファベット 文字』

◇11月7日 一斉教科部会

- ・研修内容の報告
- ・情報交換

※昨年に引き続き、小中連携をテーマに今年度は、各中学校の学区内小学校の授業参観、協議を行った。音声中心で生き生きと活動する小学校英語から、学習事項の定着を図る中学校英語への連携・引き継ぎという視点をもって今後も英語指導に当たってきたい。

(第四中学校教諭 小島崇史 記)

東久留米市

I. 研究主題

「学習指導要領に対応したバランスのよい4技能の指導～教科書の効果的な活用方法」

「小中連携を意識した英語教育のあり方」

II. 研究の経過

◇5月16日 市授業改善研

研究主題・情報交換

◇7月4日 研究授業

西中学校2年生

授業者：加藤祐紀 教諭

講師：国分寺市立第三中学校

重松 靖 校長

◇11月7日 研究授業

西中学校2年生

授業者：藤井 尚 教諭

講師：松香フォニックス研究所

松香洋子 先生

◇研究のまとめ

1. 教科書や副教材を活用しながら、4技能の活動をバランスよくまとめられる授業デザインの研究が課題である。

2. 小学校の研究授業等を中学校の部員で見学し、小学校の学習成果をつなげるために必要な課題をあげ、教室英語の使用や文字と音声の関連性の指導、小学校とそろえられるトピックの指導等を重点として今後取り組んでいく。

(南中学校主幹教諭 三田村規子 記)

武蔵村山市

I. 研究主題

「言語能力の育成を目指した指導法の研究」

II. 研究の経過

◇4月18日(水) 市中教研一斉部会・組織編成

・研究主題設定

・年間計画 等

◇10月17日(水)

村山学園授業実践交流会

第5学年英語活動

授業者：森田和信 教諭(小)

田中輪香子 教諭(中)

内容：What do you like?

講師：玉川大学客員教授

坂下孝憲 先生

◇11月7日(水)

第2回部会 研修会

「4技能のバランスの良い指導のあり方とその考え方」

講師：小鹿野町立小鹿野小学校

瀧沢広人 先生

◇2月13日(水)

第3回部会 研究授業および情報交換
第5中学校

授業者：石山美佳 教諭

(第一中学校教諭 伊藤理絵 記)

多 摩 市

I. 研究主題

「教科書の効果的な使用方法について」

II. 研究の経過

◇5月9日

市中教研一斉部会（多摩永山中学校）

内容 (1)英語部組織作り

(2)研究主題と年間計画決定

◇9月14日

研究授業（東愛宕中学校）

授業者：吉島美樹教諭

◇11月7日

研修会（多摩永山中学校）

講 師：工藤洋路先生

（東京外国語大学）

内 容：「ニュークラウンの編集方法について」

－効果的な使用方法について－

◇2月13日

多摩市研究発表会

会 場：東愛宕中学校

（和田中学校主任教諭 村田千鳥 記）

稲 城 市

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童・生徒の育成」

～児童・生徒に自信を持たせるインプットの工夫～

II. 研究の経過

◇5月9日

新教科書についての情報・意見交換、視聴覚教材等の共有

◇6月13日

ワークショップ「T.Tで行う効果的な新出語彙の導入方法」

◇8月22日

ワークショップ「アウトプットにつなげる効果的なインプットの工夫」

講 師：肥沼則明 先生

（筑波大学附属中学校）

◇9月12日 中学校研究授業

◇10月10日 中学校研究授業

◇11月14日 小学校研究授業

◇1月9日

研究まとめと次年度への課題

◇2月20日 教育研究発表会

◇研究成果

研究テーマに基づいて活動していく中で、新出事項を導入する際に具体的な場面を設定したことによって、児童・生徒の興味や題材への関心が高まり、英語によるインプットを有効に行うことができた。

（第六中学校教諭 高杉芳恵 記）

あきる野市

I. 研究主題

「既習事項を活用できる生徒の育成」

II. 研究の経過

◇6月13日 授業研究Ⅰ

会 場：増戸中学校

授 業 者：松村依子 主任教諭

授業内容：NEW CROWN 2

Lesson 3(There is～)

講 師：東京都立両国高等学校

附属中学校主任教諭

山本崇雄 先生

◇8月23日 授業力向上研修

会 場：増戸中学校

内 容：新しい教科書の効果的な活用
について

講 師：東京都立両国高等学校

附属中学校主任教諭

杉本 薫 先生

◇10月17日 授業研究Ⅱ

会 場：東中学校

授 業 者：足立貴代 教諭

授業内容：NEW CROWN 1 Lesson 5

講 師：国分寺市立第三中学校

校長 重松 靖 先生

◇1月16日 授業研究Ⅲ

会 場：秋多中学校

授 業 者：宮崎 太樹 主任教諭

授業内容：NEW CROWN 1 Lesson 8

講 師：言語教育文化研究所

常務理事 後関正明先生

(秋多中学校主任教諭 宮崎太樹 記)

西 東 京 市

I. 研究主題

「新教科書の実践研究」

II. 研究の経過

◇5月9日 西東京市中学校教育研究会定期総会、一斉部会

①本年度役員の確認

②今年度活動計画立案

◇8月1日 夏季研修会

テ ー マ：「生徒が「使える英語力」を
身につけるためにどのような
活動をすればよいのか」

講 師：国分寺市立第一中学校

相沢秀和主任教諭

内 容：3年間で身につけるべき英語
力に向けて、新しい教科書も
單元ごとに自己表現活動を設
定するものが増えてきている
中、毎日の授業の活動で、ど
のようなことをどのように構
成すればよいのかを考える研
修となった。

◇11月7日 授業研究及び研修会

授 業 者：當麻忠幸主任教諭

(西東京市立明保中学校)

授業内容：NEW CROWN 2

Lesson6 Uluru

講 師：言語教育文化研究所常務理事
後関正明 先生

内 容：研究授業の講評をいただいた
後、USE Read の扱い方に
ついてご指導いただいた。

(田無第二中学校教諭 阿戸雅恵 記)

羽村市・西多摩

I. 研究主題

「基礎基本の定着を図り、コミュニケーション能力の基礎を養うための指導の工夫」

II. 研究の経過

◇5月9日(水)

西多摩中学校教育研究会 定期総会

会 場：日の出町立平井中学校

内 容：①昨年度活動報告

②研究主題と年間計画の確認

◇8月1日(水)～3日(金)

夏季研修会

会 場：杉並区立阿佐ヶ谷中学校

内 容：・British Council より講師を
招いてのワークショップ

・Focus on formを取り入れた
新しい授業

・新しい教科書の使い方 など

◇11月8日(木)

研究授業

会 場：日の出町立大久野中学校

授業者：小林佑瑠主任教諭(平井中)

対 象：第3学年

内 容：TOTAL ENGLISH 3

“Fly Away Home”

～デジタル教科書を用いた指導
の工夫～

講 師：国分寺市立第一中学校

主任教諭 相沢秀和 先生

◇2月6日(水)

西多摩中学校教育研究会 全体会

会 場：ゆとろぎ(羽村市)

内 容：記念講演「思いを伝える工夫」

講 師：千明 孝一 様

(大久野中学校教諭 林 達哉 記)

大 島 町

I. 研究主題

「新学習指導要領に沿った指導の工夫」

II. 研究の経過

◇4月25日 町中学英語研究会

①平成23年度活動報告

②平成24年度組織作り

研究主題・年間活動計画の検討

◇6月13日 教育研究会英語部会

場 所：大島町立第一中学校

①新学習指導要領変更点の確認

②情報交換

◇6月20日 教育研究会英語部会

場 所：大島町立第一中学校

①研究授業

対 象：第3学年

授業者：池森久人 先生

②研究協議

③情報交換

◇10月17日 教育研究会英語部会

場 所：大島町立第二中学校

①研究授業

対 象：第3学年

授業者：梅田 篤 先生

②研究協議

③情報交換

◇11月21日 教育研究会英語部会

場 所：大島町立第一中学校

①4技能の総合的な指導方法の工夫

②情報交換

◇1月30日 教育研究会英語部会

場 所：大島町立第三中学校

①研究授業

対 象：第1学年

授業者：吉本洋人 先生

②研究協議

③本年度の反省と来年度の課題

(第三中学校 吉本洋人 記)

八 丈 町

I. 研究主題

「基礎的な文法力の定着」

II. 研究の経過

- ◇4月24日 第1回部会
組織作り、研究主題、活動計画
- ◇8月3日 第2回部会
共通テスト検討会
(9/3～7に実施)
- ◇10月9日 授業研究
授業者：丹生幸宣
- ◇12月5日 授業研究
授業者：丹生幸宣/松岡永
- ◇12月6日、7日 国際理解教室実施
講師にアルゼンチン出身のMaria
Claudia Furugen先生を迎える。
(12/7三原中学校、大賀郷中学校、
12/8 富士中学校)
- ◇1月16日 第3回部会 (情報交換)
- ◇1月30日 授業研究
授業者：寺本歩美
- ◇2月 (第4回部会)
予算執行報告・今年度のまとめ
次年度に向けて
(大賀郷中学校教諭 寺本歩美 記)

平成 24 年度
中英研事業報告

1. 4月26日(木) 役員会
於：千登世橋中学校

- ①役員組織等の確認
- ②年間事業計画の検討
- ③中英研定期総会に向けて
- ④役員会の日程
- ⑤関プロ茨城大会
- ⑥全英連関係等

2. 5月11日(金) 定期総会・懇親会
於：千登世橋中学校

- ①23年度事業報告
- ②23年度決算報告
- ③23年度会計監査報告
- ④新役員の承認
- ⑤24年度基本方針の承認
- ⑥24年度事業計画・予算の承認
- ⑦講演

「英語教育と人間教育」
講師：森住 衛 (桜美林大学教授)
◎懇親会

3. 6月18日(月) 役員会
於：千登世橋中学校

- ①関プロ茨城大会について
 - ②関プロ理事研修会について
 - ③地区部長、幹事名簿について
 - ④大都市公立中学校英語教育仙台大会について
 - ⑤中英研だよりについて
 - ⑥サマーワークショップ関係
- 6月29日(金)
関東甲信地区中学校英語教育
研究協議会 第1回理事研修会

於：日立市

関プロ茨城大会について
4. 7月17日(火) 役員会
於：千登世橋中学校

- ①関プロ茨城大会進捗状況
- ②全英連石川大会について
- ③サマーワークショップ関係
- ④都中英研地区部長・幹事会について

5. 7月19日(木)
「都中英研だより」第63号発行

6. 7月～8月
中英研学力調査問題の作成

7. 7月30日(月)
第1回研究部夏の語り指導ワークショップ

於：区立太田区立田園調布中学校

講師：溪内 明
千代田区立九段中等教育学校
金子健次朗
太田区立田園調布中学校
大貫由希
練馬区立豊溪中学校

8月1日(水)
第2回研究部夏の語り指導ワークショップ

於：港区千代田区立九段中等教育学校
講師：関口 智
江戸川区立清新第一中学校
上尾榮美子
江戸川区立篠崎第二中学校
石井 亨
千代田区立九段中等教育学校

8月21日(火)
第3回研究部夏の語り指導ワークショップ

於：品川区立荏原第六中学校
講師：江濱悦子
大田区立貝塚中学校
岡崎 伸一
品川区立荏原第六中学校
前田 宏美
葛飾区立桜道中学校

8. 8月17日(金) 豊島区立明豊中学校
プロジェクトチーム研修会
講 師：駒沢女子大学教授
太田 洋先生
9. 8月21日(火)
サマーワークショップ2012
於：千代田区立九段中等教育学校
ワークショップ
講 師1：本田 光三 教諭
国分寺市立第一中学校
講 師2：大竹 希依子 教諭
小平市立小平第一中学校
講 師3：川村 光一教頭
埼玉県坂戸市立第三小学校
10. 8月28日(火) 役員会
於：豊島区立千登世橋中学校
①関プロ茨城大会について
②全英連石川大会について
③コミュニケーションテスト問題の検討
「区市町村英語教育
研究部部長会・幹事会」
④各地区の活動状況について
＜講演会＞
「これからの中学校英語教育のあり方」
東京外語大学教授 根岸 雅史先生
11. 9月24日(月) 役員会
於：千登世橋中学校
①関プロ茨城大会について
②全英連石川大会について
12. 10月12日
第52回大都市公立中学校
英語教育研究連絡協議会 於：仙台市
13. 10月24日(木) 役員会
於：千登世橋中学校
①プロ茨城大会関係
②全英連石川大会関係
③各種研修会報告
④英語学芸大会について
14. 11月8日(木)
関東甲信地区中学校英語教育研究協議
会 第2回理事研修会
於：日立シビックホール
関プロ山梨大会について
15. 11月9日(金)
第36回関プロ茨城大会
於：日立シビックセンター他
主題「積極的にインタラクションできる生徒の育成を目指して」
16. 11月23日(金) 24日(土)
第62回全国英語研究大会石川大会
於：第1日目 石川県立音楽堂
第2日目 金沢学院大学
17. 11月26日(月) 役員会
1. 各部報告と連絡
2. 英語学芸大会について
18. 12月2日(日)
第65回英語学芸大会
於：豊島区立千登世橋中学校
19. 12月20日(金)
「都中英研だより」第64号発行
20. 1月22日(火) 役員会
於：千登世橋中学校
①研究部発表会について
②次年度のコミュニケーションテスト
について
③各部報告
21. 2月22日(金) 研究部発表
於：江戸川区立篠崎第二中学校
①研究授業 金子健次朗教諭
②研究協議「語いと英語(36)」
講 師：田尻 悟郎先生(関西大学)
22. 2月27日(水) 役員会
於：千登世橋中学校
23. 3月上旬
「中英研会報 第71号」発行
24. 3月下旬 役員会
①24年度各部事業・決算報告
②次年度新役員構成の確認
③次年度総会について
④情報交換
(総務部長：飯島光正 記)

東京都中学校英語教育研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
第2条 本会は事務局を会長指定の場所に置く。
第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目標とする。
第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
2. 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
3. 研究活動（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
4. 各種英語教育団体との連絡
5. 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
2. 副会長若干名
3. 部長各部ごと1名
4. 副部長各部ごと若干名
5. 会計監査2～3名
6. 幹事各区、市ごとに1名
第7条 役員を選出は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
第8条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を招集し、会務を執行する。
4. 幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。

6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。
- 第9条 役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。
- 第10条 本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。
1. 相談役はOB会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
 2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第4章 会 議

- 第11条 会議は次のとおりとする。
1. 総 会
毎年1回会長が招集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。
 2. 役員会
会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。
 3. 幹事会
役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。
 4. 部 会
[総務部] 庶務、会計・渉外および他部に属さない事項の処理
[事業部] 会の年間計画・英語学芸会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進
[調査部] コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施
[研究部] 語彙指導などの研究活動とその普及のための広報活動、研究発表会および公開授業の開催
[出版部] 中英研だより・会報などの発行
[プロジェクト・チーム部] 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究の推進

第5章 会 計

- 第12条 本会の会費は東京都中学校教育研究会よりの交付金をもってあてる。
- 第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。
- 第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。
- 第15条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 付 則

- 第16条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。
- 第17条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。
- 第18条 細則は幹事会で定めることができる。
- 第1次改定 第5条2、3及び第4章4は平成17年5月19日より実施する。

平成 24 年度 東京都中学校英語教育研究会役員名簿

役 名	氏 名	所 属 校
会 長	井 田 宗 宏	練馬区立豊玉中学校
副 会 長	飯 島 光 正	豊島区立千登世橋中学校
”	牛 島 順 子	目黒区立第四中学校
”	重 松 靖	国分寺市立第三中学校
”	阿 字 宏 康	荒川区立第一中学校
”	石 鍋 浩	足立区立蒲原中学校
”	松 岡 敬 明	武蔵野市立第一中学校
”	惣 田 修 一	足立区立湊江中学校
”	清 野 正	江戸川区立松江第六中学校
経 理 部 長	佐 藤 恭 子	世田谷区立尾山台中学校
総 務 部 長	飯 島 光 正	豊島区立千登世橋中学校
副 部 長	福 井 正 仁	港区立お台場学園
部 員	田 中 誠 一 郎	府中市立第八中学校
”	近 藤 浩	世田谷区立玉川中学校
”	堀之内 國 義	足立区第十三中学校
”	菅 野 宏 治	豊島区立池袋中学校
”	新 野 美 紀	練馬区立石神井東中学校
”	滝 口 均	東京都立桜修館中高教育学校
”	長 尾 諭	大田区立石川台中学校
”	佐々木 昭 央	目黒区立目黒第九中学校
担当副会長	重 松 靖	国分寺市立第三中学校
調 査 部 長	五十嵐 浩 子	小平市立小平第一中学校
副 部 長	本 多 敏 幸	千代田区立九段中等教育学校
副 部 長	岩 崎 紀 美 子	八王子市立別所中学校
部 員	伊地知 可 奈	品川区立荏原第一中学校
”	大 澤 陽 子	大田区立大森第七中学校
”	大 森 博	練馬区立中村中学校
”	小 川 登 子	葛飾区立葛美中学校
”	小 椋 由 紀 子	荒川区立第七中学校
”	川 口 三 保 子	府中市立府中第六中学校
”	岸 川 裕 子	府中市立府中第七中学校

役名	氏名	所属校
部員	木村弘恵	世田谷区立上祖師谷中学校
〃	斉藤基	日野市立三沢中学校
〃	柴野泰行	足立区立湊江中学校
〃	白井靖子	江東区立第二大島中学校
〃	鈴木悟	小笠原村立小笠原中学校
〃	須藤礼子	新宿区立西早稻田中学校
〃	高瀬ひとみ	千代田区立九段中等教育学校
〃	永井剛	あきる野市立五日市中学校
〃	三木謙二郎	大田区立馬込中学校
〃	宮崎大樹	あきる野市立秋多中学校
〃	山下郁子	世田谷区立松沢中学校
〃	料所奈緒子	江戸川区立松江第五中学校
〃	石原公仁余	日野市立七生中学校
〃	八木一真	大田区立大森第一中学校
〃	荒川高広	台東区立柏葉中学校
〃	木下泰孝	立川市立立川第八中学校
〃	西尾恭子	江東区立第二砂町中学校
〃	田平真季	大田区立大森第八中学校
〃	近藤江美	清瀬市立清瀬第二中学校
担当副会長	牛島順子	目黒区立第四中学校
事業部長	横山達也	八王子市立第七中学校
副部長	田口徹	千代田区立九段中等教育学校
〃	田島久士	大田区立糶谷中学校
〃	相沢隆二	文京区立第十中学校
部員	米澤登志子	目黒区立第十一中学校
〃	吉澤ひとみ	足立区立千寿桜堤中学校
〃	明石達彦	江戸川区立西葛西中学校
〃	大屋剛	世田谷区立烏山中学校
〃	宮野和子	三鷹市立にしみたか学園
〃	斉藤節子	豊島区立明豊中学校
〃	竹中敬子	東京都立城南特別支援学校

役名	氏名	所属校
部員	漆畑拓也	町田市立金井中学校
〃	前川卓哉	府中市立府中第二中学校
〃	本多光三	国分寺市立第一中学校
担当副会長	松岡敬明	武蔵野市立第一中学校
研究部長	北原延晃	港区立赤坂中学校
副部長	石井亨	千代田区立九段中等教育学校
〃	関口智	江戸川区立清新第一中学校
〃	原田博子	江東区立有明中学校
部員	横山牧子	狛江市立狛江第一中学校
〃	福井洋子	町田市立鶴川第二中学校
〃	溪内明	千代田区立九段中等教育学校
〃	大貫由季	練馬区立豊溪中学校
〃	岡崎伸一	品川区立荏原第六中学校
〃	金子健次郎	大田区立田園調布中学校
〃	上尾栄美子	江戸川区立篠崎第二中学校
〃	江濱悦子	大田区立貝塚中学校
〃	中川智子	大田区立大森第十中学校
〃	太田恵理子	葛飾区立上平井中学校
〃	坂田恵子	板橋区立上板橋第二中学校
〃	前田宏美	葛飾区立桜道中学校
〃	八木一真	大田区立大森第一中学校
〃	壽原友理子	世田谷区立三宿中学校
〃	品川智佳子	世田谷区立梅丘中学校
担当副会長	石鍋浩	足立区立蒲原中学校
出版部長	池田武男	杉並区立井草中学校
副部長	渡辺雅子	足立区立第十四中学校
〃	小柳守生	江戸川区立西葛西中学校
〃	今本由美子	練馬区立大泉中学校
部員	下路博朗	足立区立第四中学校
〃	三岡一隆	練馬区立石神井西中学校
〃	中井正弘	中野区立第四中学校

役名	氏名	所属校
部員	赤塚貴音	台東区立桜橋中学校
〃	鈴木咲子	東村山市立第七中学校
〃	岡部芳枝	足立区立入谷南中学校
〃	當麻忠幸	西東京市立明保中学校
〃	中西智子	文京区立第六中学校
担当副会長	清野正	江戸川区立松江第六中学校
P T部長	斉藤節子	豊島区立明豊中学校
副部長	佐藤順一	墨田区立文花中学校
部員	原田博子	江東区立有明中学校
〃	上尾栄美子	江戸川区立篠崎第二中学校
〃	岸川裕子	府中市立府中第七中学校
〃	大内由香里	江戸川区立葛西第三中学校
〃	飯塚貴子	練馬区立石神井西中学校
〃	角田幸彦	目黒区立第四中学校
〃	岡田幸子	東村山市立東村山第七中学校
〃	河野珠希	西東京市立保谷中学校
〃	堀恭子	豊島区立千川中学校
〃	渡邊英哲	豊島区立明豊中学校
〃	小林博子	豊島区立明豊中学校
会計監査	稲葉秀哉	板橋区立赤塚第二中学校
〃	和田文宏	狛江市立狛江第四中学校
〃	岩崎紀美子	八王子市立別所中学校

平成 24 年度 顧問

氏 名	役 職
高野 敬三	教育庁理事（教職員研修センター所長兼務）
宇田 剛	教育庁指導部主任指導主事
川越 豊彦	教育庁都立学校教育部入学選抜担当課長
松永 透	三鷹市教育委員会教育施策担当課長
小澤 哲郎	教育庁指導部指導企画課統括指導主事
永森 比人美	教育庁指導部指導企画課統括指導主事
瀧沢 佳宏	教育庁指導部高等学校教育指導課統括指導主事
大泉 昌明	西部学校経営支援センター支所統括学校経営支援主事
大槻 亨	練馬区教育委員会統括指導主事
阿部 大介	教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事
瀬田 栄治	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事
米村 珠子	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事
堀内 明	教育庁都立学校教育部高等学校教育課指導主事
森田 剛	教育庁都立学校教育部高等学校教育課指導主事
松鶴 賢二郎	教育庁人事部試験課指導主事
深尾 絵美子	東京都教職員研修センター研修部教育経営課指導主事
市村 裕子	東京都教職員研修センター研修部教育開発課指導主事
林 宣之	東京都教職員研修センター研修部教育開発課指導主事
粕谷 真由美	西部学校経営支援センター学校経営支援主事
本川 里美	千代田区教育委員会指導主事
佐藤 勝也	文京区教育委員会指導主事
東條 貴史	江東区教育委員会指導主事
加藤 雄一	中野区教育委員会指導主事
津村 慶	世田谷区教育委員会指導主事
荒木 忍	練馬区教育委員会指導主事
丸山 順子	足立区教育委員会指導主事
重山 直毅	清瀬市教育委員会指導主事
中谷 愛	多摩市教育委員会指導主事
加藤 治紀	あきる野市教育委員会指導主事

参 与

氏 名	学 校 名	職 名
新 庄 惠 子	港 区 立 高 陵 中 学 校	校 長
和 田 雅 光	文 京 区 立 本 郷 台 中 学 校	”
田 谷 至 克	墨 田 区 立 寺 島 中 学 校	”
原 田 承 彦	大 田 区 立 大 森 第 七 中 学 校	”
内 山 哲 夫	大 田 区 立 羽 田 中 学 校	”
岩 崎 正 道	世 田 谷 区 立 三 宿 中 学 校	”
中 村 貴美子	世 田 谷 区 立 梅 丘 中 学 校	”
野 瀬 博	世 田 谷 区 立 弦 卷 中 学 校	”
菅 野 武 彦	杉 並 区 立 松 溪 中 学 校	”
永 嶋 昌 博	北 区 立 桐 ヶ 丘 中 学 校	”
飯 塚 徳 彦	北 区 立 神 谷 中 学 校	”
斉 藤 進	荒 川 区 立 南 千 住 第 二 中 学 校	”
大 山 明	練 馬 区 立 石 神 井 中 学 校	”
西 正 弘	練 馬 区 立 豊 溪 中 学 校	”
当 間 一 則	練 馬 区 立 石 神 井 南 中 学 校	”
中 野 利 彦	葛 飾 区 立 本 田 中 学 校	”
鈴 木 崇 夫	足 立 区 立 江 南 中 学 校	”
原 浩 三	足 立 区 立 第 五 中 学 校	”
小 谷 野 良 行	八 王 子 市 立 高 尾 山 学 園 中 学 校	”
中 島 理 智	昭 島 市 立 拝 島 中 学 校	”
石 村 康 代	日 野 市 立 第 三 中 学 校	”
山 口 順 一	多 摩 市 立 聖 ヶ 丘 中 学 校	”
宮 寺 清	多 摩 市 立 諏 訪 中 学 校	”

あ と が き

本年度の東京都中学校英語教育研究会（都中英研）の年報である「中英研会報」第71号の発行に際し、一言付け加えさせていただきます。

まず、本誌発行におきまして、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター教科調査官の平木裕先生をはじめ、多くのご執筆者の皆様からのご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

この会報では例年、東京都の市区町からなる各地区が行っている研究と研修の実施状況の報告を「地区活動報告」として掲載させていただいております。しかしながら昨年度の第70号記念会報において、諸事情により途絶えてしまったことに対して出版部一同悔やんで参りました。そのため、本年度の編集におきましては、この点に力を入れていただきました。そして、各地区部長様がそれに呼応していただき、お陰様をもちまして全地区より活動報告を得ることができました。あらためまして、年度末の忙しい中にもかかわらず、ご執筆をいただきましたことに対して、感謝申し上げる次第です。

さて、ご存知の通り、今年度より中学校では、いよいよ新学習指導要領改定に伴う教育課程の完全実施が始まりました。全学年とも週4時間配当という、いずれの教科よりも最も多い教科配当時数となりました。英語科にだけ特化して与えられたこの時間配当を、コミュニケーション能力の総合的な育成や言語材料の扱いへの工夫等に当てなければなりません。そればかりか、小学校外国語活動との接続や高等学校との連携をも深めていかなければならないので、英語教師は皆、大きな使命と責任を痛感しているものと推察いたします。本誌では、新教育課程実施初年度ならではの先進的な実践事例を紹介することができました。また、先述の「地区活動報告」では、この過渡期を反映した研究主題や研修内容を実施している様子を伺い知ることができます。

このように、東京都における中学校英語教育に関わる1年間の動向をお知らせできることができるのも、この会報の存在意義だと自負するものであります。今後とも、この会報をご愛顧いただき、変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

最後になりましたが、本誌発行にあたり、ご支援を賜りました多くの先生方に感謝いたしますとともに、全会員の先生方の一層のご活躍をお祈りいたします。

（出版部長 池田 武男）

都中英研会報 第71号

平成24年2月28日印刷
平成24年3月8日発行

発行者 東京都中学校英語教育研究会

代表者 井田 宗広

発行所 東京都中学校英語教育研究会
東京都練馬区豊玉中学校
東京都練馬区豊玉南2-1-20
TEL(03)3994-1451

印刷所 (株) オフィス・サンライズ
東京都大田区鵜の木2-12-10
TEL(03)5741-3146